

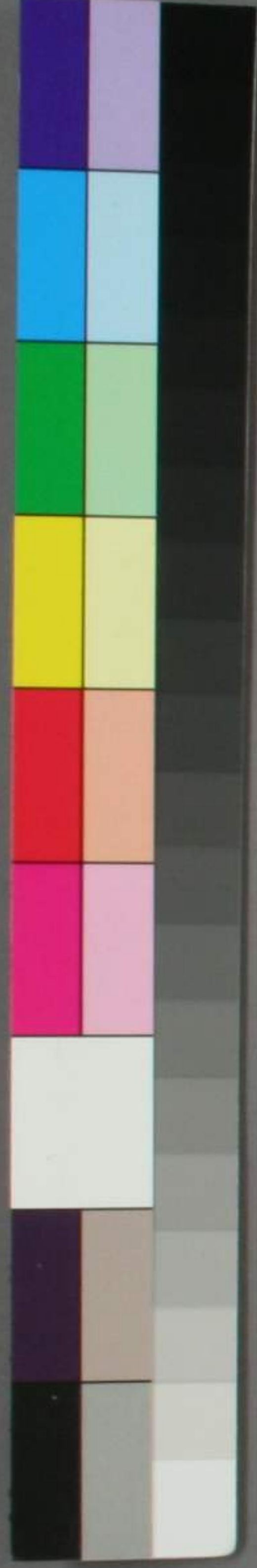
古訓
醫傳

風寒熱病方緯篇

宇津木益夫 著

三

武山
509
3



武中門
503
卷 9

古訓醫傳卷十六

風寒熱病方緯篇第三

尾張 宇津木益夫 述

○辨肺痿肺癰肺脹咳嗽病脉證并治法第八

コノ標題坊本ニ肺痿肺癰咳嗽上気病トアルハ、本条ノ肺
脹ヲ凡例ニ上気ト云タルヲ以テ、上気病ト置タルト見エ
タリ、今本条ニ照シテ、肺ノ部ニ、痿癰脹ノ三ノ差別アリテ、
気血水ノ三ノ辨別ヲ示スナリ、肺痿ハ、大ニ虚脱ノ者ニシ
テ、气道ノ疲勞シタルハ、自ラ含ミタルニ、今世上ニテ肺
痿虚勞ト重子テ云リ、虚勞ハ別ニ篇目アリテ、肺痿トハ別
ナリ、然シ虚勞ノ証ト、肺痿ノ証ト、一処ニ一人ニ併セ病ム

古訓醫傳卷十六 肺痿肺癰肺脹篇 一

溫知社
圖書記

ナラバ、肺痿虚勞ト云テ誤ニアラズ、コレラモ心得テ名ヲ
稱スベシ、肺癰、肺脹、俱ニ凡例本条ニ精ク演タレバ、別ニ言
ニ及ハズ、其内肺痿ノ証ハ、不治ノ者多シ、肺癰ト、肺脹トハ、
不治ノ者少シ、若シ不治ニ陥ル者ハ、医治ノ誤リカ、其病者
ノ不養生カノニニ回ルナリ、

口問曰、熱在上焦者、曰、熱為肺痿、肺痿之病、何從得之、師曰、或
從汗出、或從嘔吐、或從消渴、小便利數、或從便難、又被快藥、下
利重亡津液、故得之、

肺痿ノ由テ來ル所、一色ニアラズ、熱上焦ニアリテ、上部ノ
水道ノ不順ヨリ、熱ヲ生シ、其熱ニ回テ、肺葉不利シテ、痿ス
ルニ至ル、其熱ノ上焦ニアルハ、如何ナル処ヨリ、肺痿ノ病

ヲ生ズト、問ヲ發シタルナリ、師曰、或從汗出ト云リ、外邪内
發共ニ發汗シ、又ハ自ラ汗出テモ、津液漏レズシテ、ヨク和
諧スレバ、病ヲ醸スナシ、汗出テ津液涸ル片ハ、氣熱津液
ノ涸ルニ從テ、上部ニ鬱シテ、上焦ノ水道ヲサ、エテ、不和
ヲ生ゼシムル片ハ、水氣不順ニシテ、熱ヲ生ズ、熱シテ氣熱
マスキ鬱シ、津液イヨク涸ル片ハ、終ニ肺葉痿敗シテ、肺痿
ノ病トナルト云答ナリ、或ハ嘔吐シテ、津液涸ル、ヨリ、氣
熱上焦ニ生ズルモアリ、或ハ胃中ノ津液不順ニシテ、消渴
ヲ生シ、小便頻數ニシテ、利スルヨリ、上部ニ熱ヲ生ズルモ
アリ、或ハ大便難ニシテ、下部ニ熱ノアル所ヨリ、上ノ津液
不順ニシテ、熱ヲ畜テヨリモ、熱ヲ生ズ、又便難ノ証ニ、下劑

ヲカケテ、津液ヲ七ボス、重リテヨリモ、肺痿ノ病ヲ醸ス
 ナリ、以上ノ五種ノ變化ニテ来ルト云ハ、大体ヲ示シタル
 ナリ、其外熱ノ上焦ニアル者ハ、種々ノ証ヨリ轉變スレバ、
 目當トスル所ハ、熱ニヨリテ、上焦水道ヲ乾涸サセテヨリ、
 救トナリ、其效止ザルニ至リテ、肺痿ノ証トナルナレバ、来
 ル所ハ種々ナルベケレバ、上焦ニ熱ヲ畜エテ、效ノ止ザル
 ガ、コノ肺痿ノ根本ナリト知ルベシ、按スルニ本事方ニ曰、
 大黃ハ快薬也トアレバ、スベテ下劑ノ一ヲ、快薬ト云テ、宜
 シカルベシ、

口問曰、寸口脉数、其人效、口中反有濁唾涎沫者何、師曰、為肺
 痿之病、若口中辟々燥、效即胸中隱々痛、脉反滑数、此為肺痿、

效、唾膿血、脉数虚者、為肺痿、数实者、為肺癰、

コノ条ハ、脉ノ虚实ニヨリテ、肺痿肺癰ヲ別チタルナリ、サ
 テ寸口脉数ト云リ、寸口ハ上部ヲ候フ脉ナリ、数ハ熱ノア
 ル脉ナリ、故ニ寸口脉数ナレバ、熱ノ上焦ニアルヲ明カナ
 リ、其人トハ、肺痿ナラザル者ノ效ヲモ、含ミテ云タルナリ、
 一通リ效スル者ハ、痰飲ヲ吐出スル者モアレバ、口咽共ニ
 乾燥スル気味アリテ、濁唾涎沫ノナキ者ナルニ、コノ肺痿
 ノ証ニ限リテ、濁唾涎沫アル故ニ、反ト云リ、コレ肺痿ノ証
 ナリ、若口中辟々燥、效即胸中隱々痛ト云リ、辟々トハ、曝々
 也トアリテ、口中ノカラクト、ヒアガル形容ナリ、口中燥キ
 テ滋潤ナク、效スル片ハ、胸中ニ痛ヲ生ズ、コレ效ニヨリテ、

胸中ノ毒動揺シテ、キリクト痛ムナリ、故ニ隱々トシテ痛ト云リ、隱々ハ痛ノ外ヘアラハレガルナリ、肺痿ニ比スレハ、脈ハ底ニカアリテ滑ナリ、故ニ脈反滑数ト云リ、滑ノ脈ノ肺痿ニ反シタルヲ以テ、反ノ字ヲ置リ、コレ肺痿ニシテ、肺痿ト別ナル証ナリ、故ニ此為肺痿、欬唾膿血ト云リ、欬ニツレテ吐スル、膿血ノ臭気、実ニ堪エ難シ、欬バカリノ時モアレ、凡、欬ニツレテ臭気ノ甚シキハ、疊一二貼隔テ、モ居難キナリ、コレ肺痿ト、肺癰トノ別ヲ示シテ、又脈状ヲ再ビ示シ、脈数虚者、為肺痿、数実者、為肺癰ト云リ、コレ肺痿、肺癰、両ナガラ実証ニハアラザレ、凡、其中肺癰ハ、肺痿ニ比スレバ、瘰癧集リテ膿ヲ生ズル故ニ、脈ノミ実ヲアラハスナリ、

口問曰、病欬逆、脈之、何以知此為肺癰、當有膿血、吐之則死、其脈何類、師曰、寸口脈微而數、微則為風、數則為熱、微則汗出、數則惡寒、風中於衛、呼氣不入、熱過於榮、吸而不出、風傷皮毛、熱傷血脉、風含於肺、其人則欬、口乾喘滿、咽燥不渴、時唾濁沫、時々振寒、熱之所過、血為之凝滯、畜結癰膿、吐如米粥、始萌可掬、膿成則死、

上ノ条ニ欬シテ口中燥カズ、反テ濁唾涎沫アルハ、肺痿トシ、口中燥キ、欬ニツレテ、胸中ノ痛ムヲ、肺癰トシ、脈ノ虚実、逆ヲ以テ、肺痿肺癰ヲ辨別セリ、コノ条ハ、脈微而数ナルニ、肺癰ノ証アルヲ示ス、コレハ肺癰ノ中ニテモ、瘰癧ノ者ナ

リ、サテ問曰、病欬逆、脈之、何以知此、為肺癰トアリテ、欬逆ヲ
 病ム者ノ中ニ、肺癰ハ云何ト云リ、コノ脈之ノ脈ノ字ハ、診
 ノ字ノ意ナリ、一切診察ノ義ニ取ルベシ、師ノ曰、寸口ノ脈
 ノ微而數ナルニ、肺癰アリ、微ハ外感内發俱ニ、氣ノ動搖シ
 タル脈ナリ、故ニ微則為風ト云リ、氣迫リ動搖スレバ、必ず
 熱ヲ生ズ、熱ヲ生ズレバ、脈數ナリ、故ニ數則為熱ト云リ、其
 動搖ニツレテ、水ヲ結ベバ、緊ナドノ脈ヲアラハスナレバ、
 タゞ微ナル脈バカリニテハ、動搖ニツレテ、水モ共ニ動テ、
 汗出ルナリ、故ニ微則汗出ト云リ、數ハ熱ノアル脈ナレバ、
 内ニ畜血ヲ結ビタル故、表マデ十分發セザルヲ以テ、表陽
 和セズシテ、惡寒ス、故ニ數則惡寒ト云リ、コノ微ニシテ數

ナル脈ノアラハルト、氣動ヒテ熱ヲ帶ビ、汗出惡寒ノ病狀
 逆ヲアラハス也、元ヨリ欬ハコノ証ノ主ナレバ、欬ノ上ニ、
 右ノ病狀ヲアラハスナリ、コノ証ハ肺癰ニテ、虛脫ノ者ナ
 レバ、膿ヲ吐スルニ至テハ、必死ト云リ、然レバ脈ニ実カ滑
 カヲ帶レバ、膿血ヲ吐シテモ、死セザル者多シ、又微數ノ脈
 ヲアラハスニ至リテモ、必死トハ云難シ、甚危篤ニシテ難
 治ノ者ナリ、余コレ逆多ク見タルニ、肺癰ハ十二八九ハ治
 セズ、肺癰ハ十二八九逆モ治シタレバ、難治トハ云ベケレ
 氏、死トハ言難キヤウニ思ヘリ、サテコノ微則為風、數則
 為熱トアルニ付テ、精ク風熱ニヨリテ、氣血ノ變化ヲ論ゼ
 リ、風ハ一切動搖ノ意ニシテ、第一ニ氣道ヲ動スニ由テ、氣

動搖スレバ氣逆シテ呼吸上ニ迫リ、出ル息バカリ強クシ
 テ、入ル息ハ一向カスカナリ、故ニ風中於衛、呼氣不入ト云
 リ、衛ハ氣道ナリ、熱ハ氣ノ不和ヨリ生ジテ、血分ニ入テ、必
 ス血ヲ蒸セサスナリ、血蒸セテ内ニ畜積スレバ、氣モ外ニ
 ノビ達セズ、内ニ縮ムヤウニナリ、入息ノ方ノミ勝テ、出ル
 息カスカナリ、故ニ熱過于榮、吸而不出ト云リ、榮ハ血分ナ
 リ、吸ハ入ル息ナリ、呼ハ出ル息ナリ、コレ風熱ノ榮衛氣血
 ヲシテ、其ニ夢ヲ生セシメテ、呼吸兩ナカテ常度ヲ失フヲ
 示シタルナリ、コレハ肺癰ノ証ノ微而數ナル脉ヨリ、ダン
 く八条目ヲ推シ明メテ、十分論ジ尽シタリ、コノ証ノミニ
 限ラズ、一切皆此ノ如クニ辨明スベキ者ナリ、サテ又其風

氣ノ動搖スル所以ヲ推スニ、外感内発トモニ、皮毛不和シ
 テ、皮毛ノメグリヲ傷フナリ、故ニ風傷皮毛ト云リ、又熱ハ
 血ヲ滯ラス者ニシテ、血脉ノメグリヲ傷フナリ、皮毛ハ肺
 ノ部属ナレバ、風皮毛ヲ傷レバ、其動搖ノ氣モ、肺ニ含シテ
 肺ノ部位ニ、熱ノ為ニ血ヲ凝滯セシメ、ソレヨリ肺ニ氣動
 キ、血熱迫リテ、其人則欬スルナリ、コノ其人トアルハ、欬ニ
 モ種々アレバナリ、ソレヨリシテ、口燥キ喘滿シ、咽燥テ渴
 セザルニ至ル、口ノ燥クハ、肺ノ部ノ血熱ナリ、喘滿スルハ、
 欬ニツレテ咽喉燥キ、涎沫ヒツ、キテ利セザルナリ、然レ
 凡胃中以下ニ熱ナキ故ニ、夕バ咽喉ノ乾燥スルバカリニ
 シテ、渴ハナシ、時ニ濁沫ヲ唾スルニ至ル、コレ口中ニ夕マ

ル濁沫ヲ唾スルナリ、時ニトハ、始終唾シ通シニハアラス、
時々振寒スルハ、コレハ血熱肺中ニ鬱シ、欬喘シテ胸中ニ
急迫スルヨリ、表外ノ処、時々シマリテ、大ニ振フナリ、コレ
内ノ血熱ノ膿潰スル所以ニテ、此ノ如クニナルナリ、濁沫
ニハ、時一字、振寒ニハ、時々ト二字ハ、オリクヨリクナレバ、
一字ト二字ニテ、少シク間ノアルト、大ニ間ノアルトヲ示
シタルナリ、右ノ如ク熱気血分ニ過テ入レバ、必ス血凝滯
鬱結シテ、癍熱トナリ、終ニハ癍膿ヲ生ズ、故ニ熱之所過、血
為之凝滯、畜結癍膿ト云リ、終ニ欬ニツレテ吐スル所ノ膿、
米粥ノ如シ、始萌可掬、膿成則死トアレバ、前ニ述タル如ク、
コノ証ハ治スル者多シトシ、ト死地ニ陥リタル様ニ見エ

テモ、引戻ス所ノ者モアリテ、死トハ云難シ、右ノ呼気不入
吸而不出ト云語ハ、大ニ綿密ニ気血ノ迫ル形容ヲ示シタ
リ、コレ短気ト少気トナレバ、一通リ短気少気ノ病トハ、少
シク異ナル処アレバ、コノ二語ハ、一切ノ病ニカケテ、ヨク
勘考スベシ、

口上気、面浮腫、肩息、其脉浮大、為肺脹、

コノ条ニハ、欬嗽ノ一ハ云ガレバ、肺痿肺癰ヲ示スニ付テ、
又一種肺ノ部ニ憂アリテ、水気ヲ滯ラス、肺脹ノ証ヲ示シ
タルナリ、同ク肺ノ部位ナレバ、肺痿ハ、气道ノ虚シタル証、
肺癰ハ、血分ノ鬱結膿潰スル証、肺脹ハ、水気滯リテ腫ル証
ニシテ、気血水ノ三ノ差別アリ、サテ上気ト、気上逆シテ水

ヲツレテ上ニ迫ル片、胸中以上面部迄モ、水気及シテ、浮腫
 ヲナシ、咳喘ヲ添ル者多シ、コレ熱ノ上焦ニアリテ、咳ヲナ
 ス中ニ、肺痿ト、肺癰ト、肺脹トノ、三証ニ分別スルナリ、故ニ
 コノ条ハ、效ヲソエテ見ルベシ、若効ナクシテ、上気、面浮腫
 肩息スル者ハ、支飲、其外水気病等ニモアリテ、肺脹ニアラ
 ズ、コレ上心胸以上ニ水気迫リテ、呼吸促迫スルヨリ、上逆
 シテ、呼吸ノ度ゴトニ、肩モ共ニ動クナリ、至テ上逆迫切ノ
 甚シク見ユル者ナリ、故ニ其脉モ上部ニハリ出シテ、浮大
 トナル、コレ水気肺ノ部ニ迫リテ、上逆スル者ナリ、始ノ文
 ノ、熱在上焦、回救為肺痿、為肺癰、為肺脹ト、心得ベキナリ、坊
 本ノ金匱ニハ、コノ下ニ不治又加利尤甚ト云七字アリ、然

レ片肺脹モ、不治ノ症ニ決定シタルヲナシ、コレ追治シタ
 ル者多シ、又死シタルモアレバ、不治ノ字ヲ削ルナリ、又加
 利尤甚ト云タルハ、何ノ義トモ分ラザレバ、俱ニ削リテ、本
 条并ニ次ノ条ニ照シテ、肺脹ノ症ニマギレナケレバ、為肺
 脹ノ三字ヲ補フテ、凡例ノ文義ヲ列續ス、

□上気、喘而躁者、属肺脹、欲作風水、發汗則愈、

コレ前条ニモ、コ、ニモ、上気トアル故ニ、標題ニモ、上気病
 ト名目ヲ出セドモ、上気ノアルハ、肺脹ノミニ限ラズ、肺痿
 モ、肺癰モ、其外ノ気逆スル病ハ、皆上気スルナレバ、上気病
 ト云名ハ、アマリ廣クシテ、コノ一ノ肺脹ニアタリ難シ、故
 ニタシカナル名目ノ肺脹ニ換エタリ、サテコノ条モ上気

シテ水気上ニ滞ルヨリ喘シテ躁スル者ハ上ノ条ノ如ク
 肺脹ニ属スル者ナリト示シ又同ク水気上ニアリテ面目
 浮腫肩息ニ及ンテモ表氣ノ和セザルヨリ水気表ニ集リ
 テ腫ル者ハ風水ト云風水ハ表ノ水気ナレバ発汗スレバ
 愈ルナリ故ニ欲作風水発汗則愈ト云リ風水ハ真ノ水気
 病篇ニ委シコ、ニハ喘而躁トバカリニテ浮腫ノ一ハ言
 ハザレ凡風水トマギル、病状ナレバ浮腫ノアル一ハ勿
 論ナリ上ノ凡例ヲ照シテ察スベシサテ浮腫シテ喘スル
 ハ裏ノ水ノ肺ニ迫リタルナリ水迫レバ躁スルナリ气道
 ノ迫リハ煩ナレ凡血ト水トノ迫リハ躁ナリコレハ表水
 ニハアラス上気ニツレテ裏ノ水迫リテ喘シ躁スル故ニ

肺脹ニ属スルナリ若喘而躁スル証ナク浮腫バカリナレ
 バ風水ノ症ナリコレ風水ノ名ニテ水腫アルヲ含マセ喘
 而躁スルニテ肺脹ニ属スル一ヲ示シタリ風水ニ喘ノ十
 キ一ハ自ラ其中ニ含蓄シタルヲ察スベシ
 已上凡例五个条ハ肺ノ部ノ三種ノ病状ヲ挙テ各気血水
 ノ差別アルヲ示シタリサテ古人モ肺痿肺癰ノ二証ハ委
 シク説テ肺脹ノ一証ハ本条ニ歴然タレ凡並ベ説ズ闕義
 ト謂ベシ今世上ニテハ風水ニ混ジ又喘咳アル者ハ支飲
 ニ混同シテ肺脹ノ名ヲ知ラザル者多シ歎ズベキナリ按
 スルニ集註ニ尤怡曰痿者萎也如艸木之萎而不榮為津亡
 而肺焦也癰者壅也如土之壅而不通為熱聚而肺癰也故其

脈有虛實不同而其數則一也トアリ故ニ余コレニ徴フテ
肺脹ノ義ヲ注ス曰脹者漲也如水潮之漲而不流為水逆而
肺腫也故其脈浮大而无數也ト如此ニスレバ三種ノ病状
都合センカ學者嚴論トナスヲ勿レ

○肺痿吐涎沫而不飲者其人不渴必遺尿小便數所以然者
以上虛不能制下故也此為肺中冷必眩多涎唾甘艸干姜湯
以温之若服湯已渴者屬消渴

コレ本条ヲ以テ肺痿ノ証ヲ示スニツヒテ各其証ノ異同
アルヲ辨別スルナリサテ肺痿ニ歎シテ涎沫ヲ吐セザル
者アリコレ肺燥テ歎スルナリ又歎シテ涎沫ヲ吐スル者
アリコレ肺熱シテ痿スルナリコノ涎沫ヲ吐シテ歎セザ

ル者ハ陽氣上ニ虚シテ上部利セス下部空虚ニシテ少シ
モ陽氣ノ運行ナキ者ナリ故ニ其人不渴ト云リ渴セザル
ハ外ニモ多キ病ナレバ其人ト云リ下部空虚ニシテシマ
リナキ故ニ必遺尿シ其上ニ小便數トテシバく小便ニ至
リテモタツプリト通セズコレ乃チ上ニ述タル如ク上虚
シ下ヲ制スルヲ能ハザル者ニシテ肺中ノ冷ナリ故ニ此
為肺中冷ト云リ上虚シ下部空虚ナルガ故ニ必眩ス又上
虚冷ナルガ故ニ多ク涎沫ヲ吐シ下ハ遺尿シテ小便數ナ
リサテ右ノ如ク上下共ニ陽氣脱セントシテ力ナキ証ナ
レバ甘艸干姜湯ヲ以テコレヲ温ムレバ陽氣復シテ上下
通暢ヲ得ルナリ若コノ甘艸干姜湯ヲ用テ陽氣ハ一旦復

シテモ、渴ヲ生ズル者ハ、津液已ニ脱シ、血燥テ、彼ノ厥陰ノ
 消渴ニ属スル者ナリ、コレハ消渴病ニ就テ、治方ヲ處スベ
 シ、余二十年前、一女子ヲ治シタリ、年十三、衆医勞效ナリト
 テ、イロクノ藥ヲ用ヒ、灸モ一二萬又エタレ、凡治セズ、余ニ
 診ヲ請フ、其女子、面色并ニ總身ノ色、黒クシテ、光沢ナク、起
 居俱ニ短氣シテ、煩躁シ、夕、涎沫ヲ吐シテ、氣勢ナク、言語
 カナクシテ、咳ハ一向ナシ、己ニ種々ノ治療ヲ經タレバ、今
 ハ藥用モ怠リテ、空ク灸治スルノミト云リ、其時六月ノ比
 ナリ、先医皆八月ニハ、決シテ命ナシト云ヒシト聞ク、余ガ
 曰、人ノ命數、呼吸ヲ待ズ、今夜モ明日モ知レヌ者ナルニ、ハ
 月迄命アラバ、治療シタラバ、九月十月迄モ延ブベシ、又少

シ治シタラバ、來春マテニモ至ルベシ、此ノ如クニシテ延
 引サセ、五、六十年ニ至ラバ、可ナランカト云バ、其家大ニ笑
 テ、藥ヲ乞フ、余其証ヲ聴ト、詰問スルニ、寐ル所ハ、覺エズ、涎
 レ出テ、枕ノ下大ニヌレテ、夜具ノ下迄モ通ルト云リ、是ニ
 於テ、甘艸干姜湯ヲ与テ曰、コノ病一朝一夕ノ疾ニアラス、
 元來天然ノ百合毒アリテ、心胸中肺ノ部ニ客シ、水血毒ト
 俱ニ總身ニ散漫シ、種々ノ治療ニヨリテ、形神俱ニ疲労シ、
 津液不順ニナリ、加ルニ勞咳ナリト聞テ、十三歳ナレ、凡死
 期ノ近キニ心勞シテ、胸腹ニ動悸甚シク、一身羸瘦セリ、先
 ツ夜分覺エズ、ヨダレノ出ルト、昼ハ涎沫ヲ吐スルト、呼吸
 ノ短促ナルトヲ治スベシト云シニ、凡ソ廿日バカサニシ

テ夜分ノヨダレ少クナリ、昼日吐スル涎沫モ過半ヤミタ
リ、夫ヨリ柴胡桂姜湯ニ、人參黃芪ヲ加テ用ヒタリ、コレハ
涎沫ヤンデ、總身陽氣ノメグリヲ得タル片、オリク盗汗出、
唇口乾燥シテ、少シク渴ヲ生ジタレバナリ、又禹餘糧丸ヲ
兼用セシニ、三四日過ル頃ヨリ、脚ノ膝ヨリ下、足首ニ至ル
マデ、腫瘡ノ如ク、腐爛シタル瘡毒ヲ、ソロク発シ、日二月ニ
倍シテ、上ハ膝頭、下ハ足ノ甲マデヒロガリテ、寸分ノ間モ
ナク、膿汁血汁出テ、起坐歩行共ニナリガタク、褥中ニ箕踞
スル迄ノヲナリ、其内ニ延沫モサツパリ止ミ、又胸腹ノ動
悸、并ニ盜汗、氣分ノ鬱閉等皆治シテ、飲食大小便共ニヨク
調フタリ、凡ソ脚部ノ瘡毒、七月ノ末ヨリ十月ノ始マデ、タ

シク出ルニ随テ、一身ノ黒色随テ除キ、色白ク光沢ヲ生シ
テ、翌年ノ二月ニ至リテ全快シ、前年トハサツパリ變化シ
テ、一美女子トナレリ、コレ肺痿ニテ、百合ノ毒ノ内伏シタ
ル証ナレバ、ヨク和スレバ、治シテ事ナシ、

○救而上気、喉中水雞色、射干麻黄湯主之、

前条ノ肺痿トアルヲ受テ見ルベシ、サテコノ肺痿ハ、救ア
リテ気逆上衝スル者ナリ、故ニ救而上気ト云リ、其效シテ
上気スルヨリ、喉中ニ色アリテ、蛙ノ鳴クガ如シ、水雞ハ蛙
ナリト云説アリ、按スルニ、医宗金鑑ニ曰、水雞色者、謂水与
気相觸之色、在喉中連々不絶也ト云リ、コレハ救シテ涎沫
ヲ吐セザル証ニシテ、上ノ条ノ反ヲ示シタルナリ、コレ救

シテ上気スルヨリ、水血痰飲ヲ始トシテ、食物等皆咽喉
 滞リ和セズシテ、蛙鳴ノ如キ音ヲ発スルナリ、論注ノ頭書
 ニ曰、喉中水雞音、肺爵而音喘促也トアリ、右ノ如ク、效ノ
 りアリテ、涎沫ヲ吐セザル故ニ、咽喉中ニ滞ル処アリテ、呼
 吸ノ往来ニツレテ、此ノ如クニ水雞音ノ如キ響ヲナス、コ
 レ痰飲粘汁ノ和セザルナリ、故ニ射干ヲ以テ胸中ノ血熱
 ヲサバキ、紫苑欬冬花ニテ、喉中ノ喘促ヲ和シ、麻黄細辛生
 姜半夏五味子ヲ以テ、效ヲ治ス、大枣ハ喉中ノ血ヲ滋潤ス、
 上ノ条ト反シテ、同ク肺部ニ變ノアルヲ察スベシ、又感冒
 愈後、鼻不聞香臭者、宜此湯ト云リ、余ハ未試、門人脇生ナル
 者、用テ功ヲ取レリトゾ、

○欬逆上気、時々唾濁、但坐不得眠、皂莢丸主之、
 コレ灸前々ノ肺痿トアルヲ、上ニ置テ見ルベシ、コノ条ハ
 上ノ二ヶ条ヲ一ニシテ、欬モアリテ、濁沫ヲ唾スル証ヲ奉
 タルナリ、コレ上ノ二ヶ条ヨリハ、咳一等甚シク逆シテ、上
 気スルニツレテ、オリク濁リタル涎沫ヲ唾スルナリ、欬逆
 ノ勢ニテ、卧スル片ハ、欬甚シキ故ニ、坐不得眠ナリ、皂莢ハ、
 欬シテ上ニ濁沫ノ迫ルヲヨク和シ、大枣ハ、ヨク喉中ノ血
 ヲ和ス、

○欬而脉浮者、厚朴麻黄湯主之、脉沈者、沢漆湯主之、
 コレ灸肺痿ノ二字ヲ、上ニ置テ見ルベシ、サテ始ノ凡例ニ
 ハ、脉ノ虚実ヲ以テ、肺痿肺癰ヲ辨別シ、コノ条ハ、脉ノ浮沈

一テ、肺痿ノ証ノ虚実ヲ辨別ストイヘ、凡、簡約ノ文ナレバ、
 藥方ヲ以テ其意ヲ察スベシ、救シテ逆モナク、上気モナケ
 レ、凡、氣ノハリ出ス勢強クシテ、脉浮トナル者ハ、胸中ニ水
 飲ト熱ト、俱ニ迫リテ救スルナリ、故ニ濁唾涎沫ノ瘕モナ
 ク、夕々氣道ノ盛ナルヨリ、水飲肺ノ部ニ迫ルナリ、故ニ
 厚朴麻黄湯ヲ以テ、裏氣ノ鬱上シテ、水飲ノ上ニ迫ルヲサ
 バクナリ、コノ証ハ表氣ノ不和ニアラズ、裏氣内ヨリ張り
 出シテ、脉浮トナリ、水飲迫リテ、救ヲナスヲ以テ、コノ方ハ、
 小青竜加石羔湯ノ桂枝芍藥甘草ヲ去テ、厚朴小麦杏仁ヲ
 加エタルナリ、又同ジ救ニテモ、脉ノ沈ナルハ、裏氣ノハリ
 出スカナクシテ、上ニ水飲ノ行ラザルナリ、故ニ脉ノ沈ナ

ルハ、表マデ陽氣ノビズシテ、内ニ沈ミ陥リ、表ノ水血ノメ
 クラザル、少陰病ト同ジ筋合ナリ、時ニコノ沢漆湯ヲ、脉ノ
 沈ナル者ニ用テ、十全ナルベケレ、凡、コレ追試ミタルナ
 シ、コノ証ニ合フ、凡ハ、少陰篇ニアル、麻黄附子細辛湯ヲ用
 テ、數人功ヲ得タリ、故ニ今附録ニ出スナリ、沢漆湯ノ方中
 澤漆ヲ始メ、白前ナドノ功能ヲシラズ、殊ニ紫参ヲ紫苑ニ
 作ルト書シタルナド、何レカ是ナルヤ、沢漆和名トウダイ
 艸、本艸曰、味辛苦微寒、消痰退热、止嗽殺虫、利大小腸トアリ、
 一種猫兒眼睛艸ト云物アリ、同種類ナリ、紫参和名伊吹ト
 ラノヲ、白前和名スバメノオゴケ、又スバメノオコセト云、
 東流水、一名順流水、東流、順水也、治下焦腰膝病、利二便トア

リ、按スルニ千金方ニ、治噫止唾血方ニ、厚朴麻黄湯ノ細辛ヲ去リタルアリ、コノ分量トハ異ナレ、凡、噫ト云ヒ、唾血ト云テ、活用ノ廣キヲ察スベシ、回テ序ニコ、ニ舉示ス、

△救而脉沈者、麻黄附子細辛湯主之、

コレ上ノ条ニ説キタル如ク、沢漆湯ノ換リニ用テ、数人功ヲ得タリ、少陰篇ノ麻黄附子細辛湯ノ条ニハ、救ノコトハ云ハサレ、凡、麻黄細辛ノカ、ル証ナレバ、頻リニ救シテ、脉ノ沈ナル者一用レバ、大ニ功アリ、久救ニシテ、脉ノ沈ナル者ハ、多クハ肺痿ニ陥レバ、何レ共ニ心ヲ用テ診察スベキナリ、

○大逆上気、咽喉不利、止逆下気、麦門冬湯主之、

コレハ肺痿ノ二字ヲ、上ニ置テ見ルベシ、コノ証ハ救モナク、涎沫モ吐セズ、下ニ力ナクシテ、逆上ノ強キヨリ、咽喉口舌、俱ニ乾燥シテ、滋潤ナク、口中ヨリ咽喉ノ邊マテ、粘痰アルヤウニ思フテ、咽喉ノ心持アシキ証ナリ、故ニ不利ノ二字ヲ以テ、其意ヲ示シタルナリ、コノ藥ハ、竹葉石羔湯ノ石膏竹葉ヲ去テ、大枣ヲ加エタル方ナリ、此証ニテマスキ、逆上衝シテ、津液乾燥シ、虚熱上ニ迫リテ、目眩頭眩等アリ、テ、嘔吐ヲナシ、又ハ頭痛ヲ帯レバ、即竹葉石羔湯ノ証ナリ、始ヨリ竹石ノ証モアリ、前篇ニ余ガ虚勞ヲ煩フタル凡、竹石ニテ快復シタル等ヲ、照シ合シテ考フベシ、以上五个条、附録一个条、合シテ六个条ハ、肺痿ニ、少シク、ノ病状ノ進

退虚実アルトヲ示シタルナリ、按スルニ論注ニ、大逆ノ大
 ノ字ヲ、火ノ字ニ作ル、医宗金鑑ニ亦曰、大逆上気之、大字、當
 是火字、文義藥病始属、必是傳寫之謫トアリ、一通リ尤ナル
 ヤウナレ、凡、火逆ト云テハ、本文ノ主意ニアラズ、火逆ノ証
 ナラバ、火劫ノ類ニ疑シ、コレ気逆甚シクシテ、津液乾燥ス
 ル証ナレバ、彼ノ心火痰火等ノ火ノ字ノ意ナルベケレ、凡、
 逆上甚シク、故モ涎沫モシマリテ、大ニ逆スル証ナレバ、大
 ノ字ノ方穩カナランカ、サテ始ノ甘艸干姜湯ノ証ハ、涎沫
 ヲ吐スルノミニテ、故ノナキ証、次ノ射干麻黄湯ハ、故而上
 気スレ、凡、涎沫ヲ吐セザル故ニ、喉中水雞色アル証、其次ノ
 皂莢丸ハ、故逆ニシテ強ク、故シ、上気シテ時々濁沫ヲ唾シ、

横寐シテ眠ルト能ハザル証、又其次ノ厚朴麻黄湯ハ、故シ
 テ気熱強ク、裏熱上逆シテ、脈浮ナレバ、石羔ノカ、ル証、又
 ソレニ反シテ、脈ノ沈ナルハ、陽気裏ニ沈陷シテ、表外ニノ
 ビガルヨリ、上ノ水気、和セズシテ、咳スル証、コノ麦門冬湯
 ハ、故モ涎沫モ引シマリテ、夕、上逆ノ甚シキヨリ、津液滋
 潤ナク、咽喉不利スル証ナリ、コレ同シ肺痿ニモ、コノ差別
 アリ、コレニ熱気ヲ帯ル者ハ、竹葉石羔湯ノカ、ル証モア
 ルヲ察スベシ、コレ追ハ肺痿ノ証ナリ、コレヨリ後ハ、肺痿
 ノ本条ヲ出セリ、

○肺痿、喘不得卧、葶藶大枣泻肺湯主之
 コレ本条ニシテ、外ノ病状ハ、葶、凡、肺痿ノ二字ニテ、始

ノ凡例ヲ照シテ、膿血ヲ吐シ、并ニ脈状モ、肺痿ニ差別アル
 ヲ含ンテ見ルベシ、同シ肺ノ病故ニ、外見ハ同ジケレ、凡
 吐スル所ノ涎沫ニ、膿ノ有ト无トヲ別ツニハ、水ノ中へ涎
 沫ヲ吐サセテ見ルベシ、膿ナラバ薄ク、凡下ニ沈ムナリ、痰
 沫ナラバ、堅クテモ上ニ浮ブナリ、ソレノミナラス、生豆ヲ
 嚙シテ見ルベシ、肺痿ノ証ハ、生豆ノ生グサキヲ、サシテ厭
 ハサルナリ、コレニテ肺痿肺癰ノ差別ヲ知ルベシ、始ノ凡
 例ノ如ク、脈ノ数虚数実ノミニテハ、イロクノ持脈モアリ
 テ、辨別シ難ク、又数虚ノ者ニ肺癰アリ、実ニ見ユル者ニ肺
 痿ノ初発ノ者モアリ、又膿ノ有无モ、涎沫ト同ジ色ナレバ、
 見別ナ難キ故ニ、水ノ中へ吐サセテ見ルベシ、サテコノ証

ハ、毒気痰ヲ帯テ、心胸以上咽喉ニ促迫スル故ニ、喘不得卧
 ナリ、依テ葶藶ヲ以テ、毒ト共ニ迫ル痰ヲ豁キ、大枣ヲ以テ、
 血ノ滋潤ヌケテ、ガサツキ迫ルヲ和スルナリ、葶藶ハ、経篇
 ノ大陷胸丸ノ条ニテ、説キ示シタル如ク、白芥子ニ換へ用
 ルナリ、

○肺癰、胸滿脹、一身面目浮腫、鼻塞涕出、不聞香臭、酸辛、欬
 逆上気、喘鳴迫塞、葶藶大枣泻肺湯主之、三日一劑、可至三四
 劑、此先服小青龍湯

一劑
 乃進劑

コノ証ハ、前条ニ比スレバ、水飲ヲ添テ、逆迫ノ強キ肺癰ナ
 リ、故ニ胸滿脹スルナリ、脹滿ト云ヘバ、内外俱ニ滿スル形
 状ナレ、凡滿脹ト云テ、水気ノ勢、肺癰ト共ニ迫リ強ク、上逆

甚シ故ニ一身面目共ニ浮腫シ、其上鼻一テ、水血迫り塞リ
 テ、水鼻ノ出ルニ至ル、清涕ハ水鼻ナリ、コレ鼻塞ル故、粘滯
 ハ引シマリテ、タバウスキ涕ノ、シメ出サル、ナリ、其故
 ニ一切香気臭気、俱ニ聞エズ、鼻ニ香ヒヲ聞サレバ、物ノ味
 モ分リ難シ、故ニ不聞香臭酸辛ト云リ、ソレヨリ肺癰ノ迫
 リ、マスキ強ク、欬逆上気シテ、咽喉ニ膿痰共ニ迫リテ、喘鳴
 迫塞トテ、咽中ゼリクゴロク鳴テ、呼吸モ迫塞スルニ至ル、
 コレ葶藶大枣泻肺湯ノ主ル証ナレ、凡、細注ニアル通りニ、
 先小青竜湯ヲ与テ、胸中ノ水飲ヲサバキテ、後ニ本方ヲ与
 フベシ、上ノ条ハ不得卧ニテ、上迫スル処ヲ見セ、コノ条ハ、
 水飲ヲ添テ、一身面目浮腫シテ、欬逆上気喘鳴迫塞ト云ニ

テ、其勢ノ甚シキヲ示シタルナリ、

○欬而胸滿、振寒脉数、咽乾不渴、時出濁唾腥臭、久久吐膿、如
 米粥者、為肺癰、桔梗湯、并排膿散、排膿湯主之、

コノ条ハ、肺癰ノ十分ニ膿潰シタル証ヲ示シタルナリ、欬
 而胸滿ハ、上ノ条ノ胸滿脹ヲ受テ、欬ニツヒテ、胸中ノ毒痰
 迫リテ胸滿シ、振寒シテ戰栗スルナリ、コレ胸中ノ癰毒、熱
 ヲ帯ビテ、引シマル故ニ、振寒スルナリ、ソレヨリ發熱汗出
 モアリ、又熱ハ少シニテモ、汗ノ出ルアリ、或ハ汗ナクシテ、
 熱ノ少シ出ルモアリ、又別ニ熱モ出ズ、汗モ出サル証モア
 リテ、一緊ニ定リタルヲナシ、数脉ハ熱ノミノ脉ニアラス、
 結毒ノ胸中ニアルヲ以テナリ、コノ脉ノ少シク実スル者

モアリ、虚ニ見ユルモアリ、始ノ凡例ニ、数実数虚ニテ、肺痿
 肺癰ヲ辨別シタルハ、大体ヲ別ツバカリニシテ、数虚ノ者
 ニモ、肺癰ノアルヲ知ルベシ、肺中ノ毒気ノ迫ル熱ニテ、
 咽ハ乾ケ、凡、胃中ニ衰ナキ故ニ渴セズ、時ニ濁唾ヲ出シテ、
 ソノ臭気甚シ、故ニ時出濁唾腥臭ト云リ、ソレヨリ日ヲ経
 レバ、終ニ膿ヲ吐スルニ至ル、其膿ノ形、米粥ノ如シ、或ハ膿
 ト血ニ相交リテ、吐スルモアリ、又々ニテ、イロク膿色ノ衰
 アリ、コレ肺癰ノ十分ニ膿潰シタル証ナリ、コレ桔梗湯ノ
 主ル証ナリ、コノ方ノ下ニ、治血痺トアルハ、血痺虚勞ノ
 血痺ニハアラス、喉ニ血ノコリテ腫痛スル、血喉痺ノ十
 リ、サテ排膿湯、排膿散トモニ、コノ肺癰ニ用テ大ニ功ヲ得

タリ、坊本ニハ、真ノ瘡瘍腸癰ノ篇ニ有リテ、病状ハナカリ
 シヲ、今コ、ニ奉テ、肺癰ノ方ナルヲ知ラシム、排膿散ハ、
 腸癰ニモカ、ルベキ処アレ、凡、先肺癰ニ用テ功アレバ、コ
 、ニ出シテ、腸癰ノ処ニハ畧シタリ、其意ヲ知ルベシ、余数
 人治シタル内ニ、一病人年五十八、肺癰ヲ患テ、三十日計ヲ
 経タリ、日日膿血ヲ吐スルヲ、七八合、或ハ一升ハカリ、諸医
 不治ヲコトハリテ退ク、余ニ請テ診セシム、病人自ラ余ニ
 謂テ曰、此病不治ナルヲ疾ク知レリ、故ニ命ヲ惜ムヲナシ、
 然レ、凡、日日膿血ヲ吐シテ、振寒ニ耐カタシ、願クハ此病気
 ヲ退ケテ、安穩ニ死セシメ玉ヘト云、余診スルニ、日日吐ス
 ル所ノ膿血、魚肉ノ腸ノ如クニシテ、其臭気ニ堪カタク、日

二五六度ツ、振寒シテ、苦痛甚シク、食ハ至テ大食ニシテ、
四五椀ツ、喫シ、脉洪大ニシテ数ナリ、大便常ノ如ク、小便
ハ頻數ニシテ赤ク、惣身羸瘦シ、起居俱ニ疲レタリ、余カ曰、
足下ノ言ノ如ク、病ハ治スベケレ、凡命數ハ奈何トモシ難
シト云、病人大ニ喜テ藥ヲ乞フ、依テ先食ヲ減セシメ、一回
ニ粥ヲ二椀ニ定メ、昼夜四度ト約シ、魚肉一切ヲ禁シ、サテ
藥ハ排膿両方合シテ、日ニ与フルヲ五貼、凡ソ半月餘用ヒ
シニ、膿血モ少シ減シ、振寒モ間遠ニナリタレ、凡タバ上逆
甚シク、胸中煩滿シテ、熱ヲ帶タリ、ソレヨリ葦莖湯ヲ合方
ニシテ用ヒシニ、氣力日ニ復シテ、振寒粗ヤシ、病人大ニ藥
ニナリタリ、余ニ謂テ曰、病人退クニ随テ、氣力復ス、コレニ

テハ命モアル様ニ思ヘリト、余カ曰、始ヨリ命ノ詰合ハセ
ズ、今更未練ノ人カナト云ヘバ、病人曰ヲ聞テ屈服ス、サテ
又十日バカリヲ経テ、膿血サツハリ止シ、振寒ナク、蚊モナ
シ、胸中ノ煩滿モ止シ、其上ニ一身疲勞シテ、津液ナク、ガサ
クシタルモ、ニツトリト滋潤ヲ生シ、脉數ヤシテ、洪大ナリ
シモ、ダンクカサ卑クナリタリ、余此ヲ診スルニ、實ニ快復
スベキ勢ナリ、病人ニ謂テ曰、サテ命ハナキ様ニ思ヒシ處、
病ヲトリノケテ見レバ、命モアル様ナリト見ユ、決シテ全
快スベシト云、病人ノ曰、先日申上テ御叱ヲ蒙リシ故、默シ
タレ、凡御蔭ニテ今度ハ命マテ御救ヒニ預リ、大恩報シ難
シトテ大ニ悦ブ、其悦ニテ翌日ヨリ俄ニ起居モ出来、家内

ノ步行等モ、日日ニ自由ニナリテ、終ニ全快ス、コノ病人ハ、平生モ大酒暴食スル人ナリ、故ニ病中ニモ四五椀ツ、喫ス、コノ人ノミナラス、コノ証ハ、食ハヨク進シテ、不食ノ者ハ至テ稀ナリ、其後六十四歳ニテ、中風半身不遂ヲ患ヒタリ、其節モ治シテ、少シモ中風ノ外候ナキ迄ニナリタリ、其以後ハ音信ナシ、今ヲ去ル一二十年前ノ事ナリ、已上三個条肺癰ヲ示シタリ、コレヨリ以下肺脹ノ本条ヲ舉グ、

○欬而上氣、此為肺脹、其人喘、目如脫狀、脈浮大者、越婢加半夏湯主之、

サテ肺脹ハ、凡例ニアル如ク、水氣肺ニ滯リテ欬喘シ、其状支飲ニ似タル者ナリ、面目手足ノ大ニ腫ル者モアリ、欬而

上氣スルヲ、夕々肺脹トハ云難シ、コレ脈浮大ニシテ喘ヲ帶ビ、氣熱モ水モ、俱ニ上逆シテ、目ノミハリ、ウツトリトシテ、目ノカナク、ハツキリナラザルヲ形容シテ、目如脫狀ト云リ、コレ上表ニアル水ヲ主ル、越婢湯ノ証ノ上ニ、水飲胸咽ニタマリテ、欬喘スル者ナレバ、半夏ヲ加テ、上部胸裏ノ水ヲ和スルナリ、コレヲ凡例、又ハ標題ニ、肺脹ノ名目ヲ出サズシテ、夕々欬嗽上氣病ト云タルハ、粗漏ナルナリ、
○肺脹、欬而上氣、煩躁而喘、脈浮者、心下有水、小青竜加石膏湯主之、
千金證治、更ニ加脇下痛、引飲、益
上ノ条ハ、裏ヨリ張り出シテ、脈浮大トナリ、喘欬逆上ノ勢モ、全ク裏証ノミノ變ナリ、コノ条ノ証モ、同ク欬シテ上氣

スレ、氏、煩躁ヲアラハシ、表上ニ逆スル処アリテ、下ノ水マ
 テヲ引上テ喘スルナリ、コレ裏ヨリ迫ラズシテ、上ヨリ引
 上ル水ノ心下ニタマリタル者ナレバ、脈ハ浮ノミナリ、煩
 躁ノ証アリテ、気血モ俱ニ迫リタル、喘、水、気ノ變故ニ、小
 青竜湯ヲ用ルナリ、其上煩躁ノ迫リヲ目當ニ、石羔ヲ加エ
 タルナリ、細注ニアル如ク、千金方、并ニ證治準繩ニハ、服下
 痛、引欬、盆ト云語ヲ加タリ、尤ナルナリ、凡テ喘、欬甚シク
 迫ル、片ハ、下ノ水飲ノミナラズ、血モ共ニツレテ迫ル故ニ
 肩前ノ缺盆骨マデモ、響キ痛ムナリ、コレ欬喘強ク出ルト
 キハ、腹ノ物モ、皆脇以上、心胸ニ迫リテ、胸肋ヲ抑エテ、欬ヲ
 ナスニ至ル者多シ、皆コ、ノ形状ト同クシテ、虚実ハ人々

ノ宿ニヨルナリ、已上ノ二条ハ、肺脹ノ本条ナリ、サテコ
 ハニアル煩躁ヲ、坊本ニ煩燥ニ作レリ、コレ又水飲上ニ迫
 リテ、下部ノ水マデヲ引上ル勢ニテ、津液ノ滋潤メグラズ
 シテ、燥スルノモアルベケレ、氏論注并ニ医宗金鑑等ノ本
 文ニハ、躁ノ字ニ作レリ、コレ氣ニツレテ、血ハ元日、水モ
 自ル片ハ、躁スルナリ、コノ証水ヲ主トスレ、氏、小青竜湯ノ
 証ナレバ、芍薬ノカ、ル処、已ニ経篇ニ論ジタリ、併考フベ
 ジ、故ニ此処ハ、足ニ从テ躁ノ字ヲ置タリ、
 △附方、外臺、炙甘草湯、治肺痿涎唾多、心中温々液々者、
 コレ経篇、并ニ前ノ履劳篇ニモ、炙甘草湯ノ証ヲ举ゲ、外
 臺ニハ、コノ肺痿ノ証ニ与タリ、コレ本条ノ甘草干姜湯ノ

証ニ似テ、欬ナクシテ涎唾多ク、頻リニ胸ニ涎沫ヲ推上ゲ
 クテ、始終心中ムカツキ、涎唾ニナリテ、扱ナク吐スル形状
 ヲ、温々液々ト云タルナリ、コノ証ハ、血ニ滋潤ヲ失フテ、四
 方ヘノビズ、心胸ニ縮收シテ、氣ノ急迫スルニツレテ、其処
 へ津液タマリテ、涎唾トナルナリ、コレ津液モ血ト共ニ、チ
 バミテ行ラズシテ、胸中咽喉ヘムケテ、ヒトリ漏レ溢ル、
 様ニ見ユル証ナリ、何レ氣ノ急迫ノ甚シキ者ハ、水血共ニ
 行ラザル者ナリ、コノ証ハ氣バカリ緩メテモ、水血和セザ
 ル故ニ、炙甘草湯ヲ用ユ、又次ノ条ハ、氣ノ急迫縮收ノミヲ
 ユルメルト、水血ハ自ラ和スル証ナリ、併セ考テ、各主客ア
 リテ、病状ハ一ナルヲ察スベシ、

△千金甘草湯

千金治肺痿涎唾多、出血、心中温々液々者。○千金翼名温液湯。

コレ方バカリニシテ、主治ノ病状ヲ挙ガル故、不分明ナレ
 凡肺痿ノ証ニハ、咽ノ痛ム者多ケレバ、少陰篇ノ甘草湯ノ
 意ニテ、咽痛ニ用ルト見エタリ、然レ凡甘草ノ主治スル所
 ノ、氣ノ縮約收肅スル者ニアラズンバ、与ベカラズ、コレ上
 ノ炙甘草湯ト、病状ハ同クシテ、証ハ異ナリ、氣サヘ緩メル
 凡ハ、水血ハ自ラ和スル者ナリ、

△千金、生姜甘草湯、治肺痿、吐唾涎沫不止、咽燥而渴、
 コノ条ハ、前ノ甘草湯ヲ受テ、同ク肺痿ノ中ニ、血分ノ衰ヲ
 帯ビナガラ、癭膿ニナラザル証ナリ、欬唾涎沫不止ハ、前々
 ニ示シタルト同ジ、咽燥ハ、津液涸枯スル故ナリ、其上ニ血

分凝結シテ、渴ヲ發スルナリ、コレ肺痿ナカラモ、少シク肺
癘ノ兆ヲ含ミタリ、故ニ大枣ヲ十五枚トナシ、人参ヲ三兩
トス、生姜甘草湯ト云方名ハ、主タル肺痿ニカケテ、内ニ人
参大枣ノカ、ル血分ノ衰アリ、今一等進ム片ハ、肺癘ニモ
至ルベキ勢ノアルヲ察スベシ、

△千金、桂枝去芍藥加皂莢湯、治肺痿吐涎沫、

コレ本条ノ皂莢丸ヲ照シテ考フベシ、按ズルニ、太陽下篇、
火逆ノ本条ニ、傷寒脈浮、醫以火迫劫之、亡陽必驚狂、起卧不
安者、桂枝去芍藥加蜀漆牡蛎竜骨救逆湯主之トアリ、又太
陽上篇ニ、太陽病下之後、脈促胸滿者、桂枝去芍藥湯主之ト
アリテ、火逆ニテ、驚狂起卧不安者ニハ、竜骨牡蛎蜀漆ヲ加

上、下シテ後、氣乍チニ上奔シテ、胸中ノ気モ俱ニ迫リテ滿
スルハ、驚狂トハ言ザレ、凡、氣ノ奔突シテ、乍ニ衝逆スル勢
ヲ、促脈ニテ示シタルナリ、左スレバコ、ノ桂枝去芍藥湯
モ、何事ゾ事ニ觸レテ、氣ノ衝突スル処アリテ、胸滿スベキ
者ナルニ、此人兼テ胸咽ノ間ニ、水血ノ和セザル処アリテ、
肺痿ノ証トナリ、涎沫ヲ吐スルニ至リタルナリ、何レ桂枝
去芍藥湯ハ、驚狂ヨリ發スル証ニカ、レリ、其中少シ宛ノ
病人ノ變化虚実ニヨリテ、救逆湯ト、加皂莢湯トノ別アル
ナリ、コノ皂莢ハ、上逆シテ上ニ迫ル水飲、涎唾ノ濁沫ヲ和
ス、前条ハ已ニ肺癘ノ萌シアルヲ示シ、コノ条ハ、次ノ奔豚
病ノ凡例ニ、病有奔豚、有吐膿、有驚怖、有火邪、此四部病、皆從

驚恐得之トアリテ、火邪驚怖奔豚ノ、驚狂ヨリ起ルヲハ明
 白ナレバ、吐膿ノ証ハ、肺痿肺癰ノ二病ニ涉ル者ナレバ、驚
 狂ヨリ得タルヲハ、大ニ疑シキヲ以テ、奔豚病篇ニアル、吐
 膿ノ驚狂ヨリ発スル証ヲ含ミタルナリ、コレ肺痿トアレ
 氏、桂枝去芍藥湯ノ証ナレバ、氣ハ勿論、水ハ現ニ涎沫ニテ
 上ニ出レバ、内ニ血分ノ逼迫ナクテハ、叶ハザルヲナリ、コ
 レ肺痿ナレバ、終ニ吐膿スルニ至レバ、肺癰ニ涉ルヲアリ、
 ヨクク勘考シテ、主客ヲ辨別スベシ、コレ迄肺痿ノ附方以
 上四个条ナリ、

△外臺、桔梗白散、治欬而胸滿、振寒、脈數、咽乾、不渴、時出濁唾
 腥臭、久久吐膿、寒如米粥者、為肺癰、中ノ凡テ肺ニ涉ルヲハ

コレヨリ肺癰ノ附方ヲ示スナリ、コノ病状ハ、本条ノ桔梗
 湯ノカ、ル証ト、文章同クシテ、唯一本ニ寒如米粥ノ寒ノ
 字ノ有ト无トノ異ナルノミナリ、桔梗湯ト、桔梗白散トハ
 虚実ノ別アリ、コレハ前ノ附方ノ炙甘草湯ト、甘草湯ト、方
 ハ異ナレバ、病ノ形状ハ同ジナルト、ヨク符合ス、此等ノ
 処ヲ辨明スベシ、桔梗湯、排膿散、排膿湯ノ証ニ比スレバ、巴
 豆ノカ、ル証ユエ、内ノ実シタル所アルヲ目當トスベシ、
 何レコノ白散ノカ、ル肺癰ハ、彼ノ百合ノ一毒ノ、肺部ニ
 聚滯シタルヨリ、来レリト知ルベシ、太陽下篇ノ結胸ノ部
 ノ条ニ、寒実結胸无热証者、与三物小陷胸湯、白散亦可服ト
 アルヲモ併セ考テ、痰飲ニ宿毒ヲ帯ビテ、心胸以上咽喉マ

デモ迫リテ、欬喘涎沫等ノ諸証ヲアラハス者ニ、カ、ル
 ヲ知ルベシ、
 △千金葦莖湯、治、效有微熱、煩滿、胸中甲錯、是為肺癰、
 コレハ肺癰ノ附方ニ、一種ノ証ヲ奉テ、コノ病ノアリタケ
 ヲ示シ、尽スナリ、コノ葦莖湯ハ、實ニ肺癰ノ聖藥ナリ、與ノ
 腸癰ノ大黃牡丹湯ト、肺ト腸トノ上下ノ差別アリテ、同ク
 癰ニカ、ル所ヲ辨明スベシ、コノ症モ效アリテ、上逆スル
 一ハ、前々ノ條ト同ジケレバ、熱氣胸中ニアリテ、表外ヘハ
 甚シク發セザル故ニ、有微熱ト云タルナリ、熱氣心胸中ニ
 爵スル所アリテ、血凝滯シ、津液メグラザル故ニ、煩滿、胸中
 甲錯スルナリ、コレ心中ニ水血爵滯シテ、サラクシテ、ニツ

トリトセザル心持ニ覺ルヲ、胸中甲錯ト云リ、人々ニヨリ
 テ、一身ノ甲錯スル証モアリ、其外效ノ臭氣、膿血等ヲ吐ス
 ル一ハ、皆肺癰ト同ジナリ、コレ同ジ肺癰ニシテ、各藥方
 ノ異ナルヲ辨明スベキナリ、按スルニ、葦莖、體質輕浮、而味
 甘寒、解表熱トアリ、初生、名葭、稍大、為蘆、長成、為葦、トアレバ
 葦莖ハ、十分長大ニナリテ、スダレニ用ル時ノ名ナリ、故ニ
 其枯葦ニナリタル根ノ本ノ処ヲ用ユベシ、本艸備要ニ、蘆
 根、甘、益胃、寒、降火、治、嘔逆、反胃、消渴、客熱、傷寒、內熱、止小便數、
 解魚肉河豚毒トアリ、又取逆水肥厚者、去鬚節用トアリ、
 凡、
 辨、
 凡、
 藥中用、
 子、
 皆、
 冬、
 瓜、
 子、
 也、
 ト、
 ア、
 リ、
 生、
 ノ、
 冬、
 瓜、
 ア、
 ル、
 時、
 ハ、
 用、
 ユ、
 ル

二宜シケレ、氏冬ノ時節ハ、瓜仁ナラデハ、手ニ入り難シ、故
 ニ大黃牡丹湯ノ冬瓜仁ニ從フテ、コノ方ニモ瓜仁ヲ用ル
 ナリ、瓜仁、桃仁、俱ニ血ノ爵シテ膿ト成ルニ用ユ、肺癰ハ上
 部ナレバ、葶藶、薏苡仁ヲ用ヒ、腸癰ハ下部ナレバ、大黃、芒消、
 牡丹皮ヲ用ユ、又厘分ノ腸癰ニ、薏苡附子敗醬散ノカ、ル
 証アリ、コ、ノ薏苡仁モ、心ヲ以テ解スベシ、按スル
 ニ三因方ニ、コノ方中ノ桃仁ヲ去リ、防己杏仁各三分、雞子
 白皮一分ヲ加エテ清肺湯ト名ク、コレ亦肺癰ニカ、ル取
 ヲ考フベシ、已上二条ハ、肺癰ノ附録ナリ、
 コノ篇通計二十二个条、凡例、本条、附録共ニ備リテ、肺痿肺
 癰、肺脹ノ、欬嗽ノ、虛実変化ヲ示シタリ、奥ノ痰飲ノ、欬嗽ト

差別アルヲ察スベシ、コノ外、千金外臺等ニ出ス、処ノ方、皆
 コレヲ畧ス、

Blank page with vertical lines for text.

○辨奔豚氣病脉證并治法第九

奔豚病ハ、已ニ經篇ニ於テ説キ示シタル如ク、後世ニテハ、
腎ノ積氣ト云来レリ、コレ腎ハ水藏ナレバ、コノ奔豚病ハ、
水ヲ子ニ奔突上衝シテ、心胸咽喉迄モ、上リ塞ル故カトモ
思ハルレト、第一氣ノ奔迫突上スルヨリ、水モ血モ俱ニツ
レテ、衝逆スル証ニシテ、水ノミ迫ルトハ云難シ、其中ニ氣
血水ノ差別アリテ、各主タル所アレト、奔豚ノ形状ハ一十
リ、
口師曰、病有奔豚、有吐膿、有驚怖、有火邪、此四部病、皆從驚發
得之、

コノ凡例ハ、奔豚ノ驚動ヨリ起ルヲ示スニツヒテ、驚動

言醫傳卷十六
示別車痛
スレバトテ、必ス奔豚ヲ發スルニ定ラズ、外ノ病ニモ變化
スル故ニ、其變化スル所ノ病ヲ、都合四種、コ、ニ挙ゲ示ス
ナリ、吐膿ハ、上篇ノ肺癰ノ病ナリ、肺癰ハ、必ス驚動ヨリ發
スルニ決定シタルハナケレバ、一種驚動シテ、氣血乍チ
心胸ニ迫ルヨリ、水血鬱閉シテ、咽喉マデモ迫リ、終ニハ肺
癰トナリテ、膿ヲ吐スルニ至ルナリ、又驚怖ハ、驚動ヨリ心
氣ノ迫ルニ付テ、何事ニモ恐レテ、心神穩カナラザルヨリ、
種々ノ病証ヲ釀ス者ナリ、コレ亦一病ニ限ラ子バ、驚ヨリ
起リテ、驚怖スルヲ示シタルナリ、其中小兒ナドハ、コノ驚
怖、萬病ノ根本トナリテ、千變萬化シテ、終ニハ不治ノ症ニ
至ル者多シ、火邪ハ、經篇ニ火劫ノ類、凡例、本条共ニ備ハリ

テ詳ナリ、コレモ亦種々ノ變化アリテ、大ニ危篤ニ及テ、救
フベカラザルニ至ル者多シ、與ノ驚悸吐血、下血病篇ニ、火
邪モ一緒ニ編入シタルバ、皆其回ハ一ナルヲ察スベシ、
コレ驚恐シテ、四種ノ病ノ回トナル所以ヲ示シタルナリ、
故ニ此四部病、皆從驚發、得之ト云リ、
口師曰、奔豚病、從少腹起、上衝咽喉、發作欲死、復還止、皆從驚
恐得之、

前ノ凡例ハ、四部共ニ驚恐ヨリ起リテ、各變化シテ種々ノ
病状ヲ釀スヲ示シ、コノ凡例ニ於テ、奔豚ノ病状ヲ示ス
ナリ、サテ奔豚ノ病ハ、經篇ニモ説シ如ク、氣ノ奔迫スルヨ
リ起ル故ニ、標題ニハ奔豚氣病ト、氣ノ字ヲ添テ、元來驚動

ヨリ發起スル病ナルヲ示シタリ、其状ハ少腹下腹ヨリ、
 豚ノ如キ者、急ニ奔上シテ、咽喉マデモ衝キツメテ、呼吸促
 迫シ、短気シテ、今モ取結メ、息モ絶ルカト思フ様ニ見ユル
 ナリ、コレ豚ノ奔走シテ、上衝迫突スル形ノ如キヲ以テ、奔
 豚ト名ケタルナリ、由テ其病状ヲ示シテ、病從少腹起、上衝
 咽喉發作欲死ト云リ、コレ甚夕危篤ナルヤウニ見ユレ、
 シバラクアリテ緩ム片ハ、何事モナク平ニナルナリ、故ニ
 復還止ト云リ、コレニ気血水三種ノ差別アレ、凡、回ハ一十
 リ、故ニ皆從驚恐得之ト云リ、前条ニハ、從驚發得之トアリ、
 コノ條ニハ、從驚恐得之トアリ、又一本ニハ、兩条共ニ、從驚
 恐得之トアリ、コレ驚ハ、ウツカリトシテ居ル時ニ、何事ニ

ヨラズ、事起リテビツクリスルヨリ、気ノ動揺スルナリ、恐
 ハ心ニ嫌フ所ノ狐狸陰火、又ハ雷鳴暴風等ニ至ルマテ、其
 物ヲ知リテ、恐ル、ヲ云、シカシ驚テモ、恐レザル時アリ、驚
 カズシテ、恐ル、時モアリ、其時ト、其事物ニヨリテ、イロク
 變化アルナリ、コレヲ分テ云片ハ、思ヒガケナク恐ル、ガ
 驚ノ方、知リテ驚クガ、恐ノ方ナリ、然レ、凡、驚恐一緒ニ來ル
 者多シ、

○奔豚気、上衝胸、腹痛、往來寒熱、奔豚湯主之、

コノ条ハ、奔豚ニテ、乍チ上迫スル気ニツレテ、血分主トナ
 リテ迫ル証ナリ、然レ、凡、元氣ノ奔迫ヨリ起ル病故ニ、コ、
 ニモ奔豚気ト云リ、コノ気ノ字ヲ、下ノ上衝ニモ、カケテ見

ルベシ、サテ奔豚ハ、何事ニモセヨ驚恐シテ、俄ニ驚動スレバ、一身皮表ノ気内ニ引レマリ、气道閉ル故ニ、裏氣逆シテ、衝キ上ルト、其気ニツレテ、一身ノ血分モ俱ニ引レマリ、気血胸中ニ迫ルニ付テ、下ノ気ト血ト、皆胸ニ奔迫上衝スルナリ、コレ気血ノ急迫アル胸ノ処へ、又下ノ気血モ上迫シテ、少陽ノ位ニ集ルナリ、故ニ腹痛、往来寒熱スルナリ、気上衝胸ト云、気從少腹上至心ト云ハ、奔豚ノ形状ニシテ、藥方ヲ處スルニ至リテハ、腹痛ト、往来寒熱ガ、奔豚湯ノ目當ノ証ナリ、右ノ気上衝胸ト云証ハ、太陽上篇ノ苓桂朮甘湯ノ証ニヨク似タレ、凡、心下逆滿ト、起則頭眩トナキヲ以テ見レバ、コノ証ハ、始終胸ニ上衝シ通シニアラズ、時々ニ起ル

者ナリ、コレ奔豚ト云二字ニ、始ノ凡例ノ復還止ノ意ヲ、含ンデ見ルベシ、腹痛ハ、俄ニ血逼迫拘牽シテ、上衝ノ気ト共ニ、寢ヲ生ジタル故ナリ、コノ文面ニテハ、往来寒熱腹痛等、少陽柴胡ノ症ニ疑シケレ、凡、一切急病ニテ、一旦取り結テ、其トリツメノ緩ム、凡、俄ニ惡寒ヲ覺エテ、被ヲ覆ヒ、暫時アリテ發熱シ、大ニ汗出テ、サツハリト快復スル者ハ、皆柴胡ノ証ニアラズ、コ、モ亦柴胡ニ似テ、非ナル者ナリ、コレ苓桂朮甘湯ト、小柴胡湯ト、コノ奔豚湯ト、大ニ疑シケレバ、文面ノ病状ニ、奔豚ト云形状ヲ添エテ、奔豚湯ノカ、ル症ヲ分別スベシ、小柴胡湯ト、苓桂朮甘湯トハ、太陽上篇ニ説キ示シタレバ、コ、ニ載ズ、サテ右ノ如ク、俄ニ突上スル病ニ

テ、血分ノ主タル証ナレバ、先第一氣ノ急迫ヲ緩シガ為ニ、
 甘艸ヲ主トシテ、芍藥、當歸、黃芩、芍藥、各二兩、生葛五兩ニシ
 タリ、コレ葛根ヲ生ニテ用レバ、一身ノ血分、外迫シテ凝結
 シタルヲ緩メルヲ、乾葛ヨリ速カナレバ、平生ニ用意シカ
 タギ故ニ、ヤハリ乾葛ヲ用ルナリ、按スルニ葛根、生用則大
 寒解熱トアルハ、血ノ迫ルニ付テ、貯ル所ノ熱ガ、血ノ和ス
 ルニツレテ、解スル故ナリ、大寒トアレバ、寒性ノ者ニアラ
 ズ、コレ氣味ノ辛甘ニアツカラズシテ、血分ニ入ル藥ナレ
 バナリ、又氣上、衝胸、腹痛、往來寒熱ノ迫リニテ、水モ夕マ
 ル故ニ、半夏、生姜アリ、甘李根、白皮ハ、スモ、ノ根ノ白皮ニシ
 テ、上突外迫スル所ノ血ヲ、收斂下降シテ、清涼ニスル効ア

リ、以上九味ヲ以テ、氣ノ急迫ヲ緩メ、上外并ニ項背、又ハ脊
 推ノ凝結ヲユルメルナリ、コノ病人ニ、至テ胸腹ニ動氣高
 クシテ、火逆ノ救逆湯ニ大ニマギラハシキ者アリ、ヨクク
 診別スベシ、

○發汗後、燒針令其汗、針處被寒、杖起而赤者、必發奔豚、氣從
 少腹上至心、灸其杖上、各一壯、與桂枝加桂湯主之、

コレ已ニ太陽下篇ノ火邪部類ニテ、説キ示シタリ、經篇ニ
 ハ、發汗後ノ三字ナシ、有テモ死クテモ、意ニ於テ、サハリナ
 ケレバ、苦シカラズ、諸燒針トハ、燒キ針ヲアテ、發汗ヲス
 ル治療ニシテ、今ノ溫石モ其類ナリ、コノ証ハ其針ノ當リ
 タル所、ダリクト堅ク凝テ赤シ、コレ氣ノ十分ニ凝結シタ

ルナリ、被寒ノ二字ハ、トチラレテト読ムベシ、委クハ太陽
 下篇ニ就テ見ルベシ、經篇ニハ、灸其枝上各一壯ト云七字
 ナシ、コレ薬用ヲ主トスル故ニ、ワサト治療ノ混雜セヌ様
 ニト思テ削リ去ル、コ、ハ又桂枝加桂湯ノ主タルハ、巳ニ
 經篇ニ委ク説キ示シタレバ、火ノ誤リヲ解スルニハ、火ヲ
 以テスベキ義ヲ示ス為ニ、其俛取リ用ルナリ、タトエバ太
 陽下篇ノ大黃黃連瀉心湯ノ症ハ、始メ誤テ發汗シタルヨ
 リ、其衰ニ回テ、終ニ發熱惡寒ノ真ノ表証トナリタリ、コレ
 發汗シテ、表証ニシタラバ、コノ度コソ、發汗シテ表ヲ和ス
 ベキニ、始ノ發汗ノ當ラザルヲノミ、心ニ恐レテ、發汗ヨリ
 衰ジテ、表証ニナリタルヲ、トクト診察セズ、已レガ胸臆ノ

理ノミニ惑フテ、裏証ナラント思フテ、發熱惡寒ノ表証ニ、
 轉變シタルニ眼ヲカズ、回テ復タ之ヲ下シ、表氣胸ニ陥リ、
 裏ノ水血下リ竭テ、惟氣ノミ痞シテ、心下ニ迫ルヲ治スル
 ニ、下劑ノ衰ニテ、心下痞スル者ナレ、凡ヤハリ大黃ヲ用テ、
 裏ニ在ル所ノ氣ヲ、下降スレバ治ス、コレ氣ノミ痞シテ、濡
 カナル証ユエニ、振リ出シニシテ、煎湯ニハアラストイヘ
 凡、下劑ノ誤ハ、下劑テ復シ、發汗ノ誤ハ、發汗ニテ復スベキ
 者ナリ、コノ理ヲ以テ推スニ、燒針ノ衰ニテ、此ノ如クニ針
 處、按起而赤ク、一身ノ表氣、十分閉塞シ、裏氣奔迫シテ、奔豚
 ヲ生ズル所ノ者ニハ、又其按起而赤色ナル上へ、灸ヲ一壯
 スユルモ、亦火ノ誤ヲ、火ニテ取り戻スノ手段ナリ、コノ段

ノ治療ヲ平生ヨク心得テ倒置セ又様ニスベキナリ、コ
ノ七字ヲ取り用ルナリ、コノ条ハ気道ノ主ト
ナル奔豚ナリ、主タル所ハ、表外ニアリテ、病ハ裏下ヨリ衝
突スル者ナリ、

○發汗後、臍下悸者、欲作奔豚、茯苓桂枝甘草大枣湯主之
コレハ水ノ主トナル奔豚ナリ、コノ条ハ、已ニ太陽上篇ニ
テ説キ示シタレバ再ビ贅セス、経篇ニハ臍下悸ノ上ニ、其
人ノ二字アリ、コノニハ畧シタレバ、ヤハリ其人ノ二字ア
ル心持ニテ看ルベシ、

已上五个条ハ、奔豚ノ病状ト、其病状ニ気血水ノ主客アル
ヲ示シタルナリ、精クハ経篇ニ就テ考フベシ、

△三回方、奔豚湯、治腎之積、發於小腹、上至心、如豚走奔之状、
上下无時、久々不已、病喘逆、骨痠、少气、其脉沈而滑、

コノ條ハ上ニ説タリ、又、病喘逆、骨痠、少气、其脉沈而滑
ナルヲ、本条ノ奔豚湯ノ症ニ加テ見ルベシ、

已上奔豚気病篇、通計六个条、内一个条ハ、三回方ヲ以テ新
補セリ、餘ハ経篇ニ委ク説示シタレバ、往テ見ルベシ、

辨胸痺心痛短氣病脉證并治法第十
 胸痺ノ病ハ、實ニ陽氣ノ力ナキ人、心胸ニ氣血水共ニアツ
 二リテ、不順ニナリタル証ナリ、コレ種々ニ辛苦經營シテ、
 無理ナル酒ヲ過シ、又ハ昼夜卧セズシテ、不養生ヲ行ヒ、或
 ハ膏粱ヲ貪リ、又ハ種々ノ心勞ヲシテ、十分心胸中ニ水血
 凝リテ、心腹ニ痛ヲ覺エ、又ハ短氣促迫ノ症ヲモ帶ルナリ、
 其中ニ各虛実アルナリ、何ノ病症テモ皆同シナリ、
 口師曰、夫脉當取大過不及、陽微陰弦、即胸痺而痛、所以然者、
 責其極虛也、今陽虛、知在上焦、所以胸痺心痛者、以其陰弦故
 也、
 夫レ脉ヲ診スルハ、一切ノ萬病、何レモ平脉ヲ中ニシテ、太

過ト不及トヲ、ヨク診察スベキナリ、故ニ脉當取大過不及
ト云リ、サテ陽微陰弦ノ脉ヲ、診シ得タルニ付テ、胸痺シテ
痛ノアルヲ知リタルナリ、陽微トハ、指ヲ輕クトルト、寸関
以上ノ部位ノ脉ノ、微ナルナリ、コレ陽氣上ニ不順ニシテ、
上部ノ水血モ、共ニ不順ナル脉ナリ、陰弦トハ、指ヲ重ク抑
ユルト、関尺ノ部位ノ脉ノ、弦ナルナリ、コレ内ニ力、无クシ
テ、水血下ニ行グルヲ能ハサルヨリ、引上ケラル、脉ナレ
バ、コノ弦ハ、底ニ力ナク、上へ引上ゲラレテ、引パルナリ、故
ニ陽ノ微ナルニテ、上ヅリニナリタルヲ知リ、陰ノ弦ナル
ニテ、水血俱ニ陽微ノ処マデ、引上ゲラレテ、上ニテ不順ナ
ルヲ知ル、コレ陽氣、胸中ニ不順ニシテ、陰血水飲モ、胸ニ和

セザルヨリ、氣血胸中ニ滯リテ、胸痺シ、ソレニツレテ水飲
夕下リ、凝結シテ痛ムナリ、コレ脉ノ微ニシテ弦ナルニテ、
胸痺シテ痛ヲ知ルナリ、コレハ自然ト、此ノ如キ病ヲ得タ
ルモアラシカナレ、凡、上部ニ陽氣虚シテ、其虚シタル上部
ノ処へ、水血集リ滯リテナス病ナレバ、所以然者ハト、其由
来ヲ説テ、責其極虚也ト云リ、夫極虚ノ者ハ、陽氣宣通セズ
シテ、水血滯リ易シ、今極虚ノ者ヲ責ル、凡ハ、下部ノ水血空
虚ニナリ、陽マズク上ニ虚ス、其上陽虚ノ部位へ、水血集リ
滯リテ、胸痺シテ痛ムナリ、故ニ今陽虚知、在上焦ト云リ、コ
レ其陽虚ノ上焦ノ部位へ、水血聚滯シテ、痺痛ヲナス、故ニ
胸ト云心ト云タルナリ、右ノ如ク陽氣不順ナル故ニ、水血

ヲシテ、四末ニ宣通順環セシムルヲ能ハズシテ、其虚シテ
迫ル処ニ、水血乗シテ痺痛ヲナス、故ニ所以胸痺心痛者、以
其陰弦故也ト云リ、一本ニ胸痺ノ痺ノ字ヲ、痛ノ字ニ作レ
リ、随分尤ナレ、臣同ジ意ナリ、コノ条ハ脈ノ部位ヲヨク診
シ、脈状ヲヨク察シテ、其病症ヲ明カニ知ル條ナレバ、実ニ
良工ノ病ニ臨ム所以ナリ、学者病者ニ臨ムニ、片時モ此条
ノ意ヲ忘ル、トナカレ、

口平人、无寒热、短气、不足以息者、实也、

コノ条ハ平人トアレバ、无病ニシテ、何事モナケレ、臣、俄ニ
短气シテ、息ノ出来カヌル証ト見エタリ、コレ積気カ、又ハ
物ノ拒ミタルカ、食滞カノ者ニアリ、短气ハ、胸ニアツカル

証ナレ、臣、真ニ少陽ノ病状ニアラザル故ニ、无寒热ト云リ、
呼吸ヲサ、エテ、息ニカマフ者ハ、皆胸中ニ水血ノカラミ
迫ル者ナリ、余毎々打撲ノ者、又ハ物ニ驚キタル者、或ハ死
喪其外力業ヲシテ、気ノ凝リタル人ヲ見ルニ、寒热ナク短
气シテ、息ニサハリテ、心胸中ノ痛ム者多シ、コノ者腹診ヲ
スルニ、右ノ胸脇ヨリ、心胸中ニ牽急シテ痛ムナリ、コレ水
血凝結シテ、実証ノ者ナリ、然レ、臣、上部ナレバ、下劑ノ症ニ
ハアラズ、當飯芍薬湯ノカ、ル者ナリ、又俄ニ驚動シテヨ
リモ、コノ症ニナル者アリ、平人ノ字、置得テ妙ナリ、

○胸痺之為病、喘息欬唾、胸背痛、短气、寸口脉沈而遲、關上小
紧数、栝蒌薤白白酒湯主之、

夫胸痺ノ病ハ陽氣上ニ塵シ、水血其部ニ凝滯シテ、不順ナ
ル証ナレバ、陽氣ノ塵ヲ主トシテ、内ノ水血ノ格碍スルヲ
和スベキナリ、夫人身ノ陽氣盛ナル所ハ、内外ノ水血モ、
陽氣ニツレラレテ四體百骸會通セザル所ハナケレ、凡陽
氣塵スル所ハ、其陽氣ノ塵シタル部位ニ、水血モ格碍スル
ナリ、コレ胸痺ノ陽塵上焦ニシテ、水血痛痺ヲナス所以ナ
リ、サテ心胸ノ陽氣舒ズシテ、水血上ニ迫ル所ハ、呼吸ニツ
レテ喘鳴スルナリ、コレヲ喘息ト云、世上ニ喘息ト名ル病
ト同状ナリ、其上痰トナリテ、心胸咽喉ニ迫リ、血ト水ト、内
外向背俱ニ滯リテ、不順ナレバ、欬唾胸背痛シテ、短氣スル
ナリ、以上ノ症ハ、上部ニ陽氣ノビズシテ、水血ソレガ為ニ

動カズ、心胸ニカラム者ナレバ、實ニ見エテモ、塵ナルヲ
徴セシ為ニ、沈而遲ナル脈ヲ奉タリ、コレ陽氣沈シテ、水血
宣通セザル脈ナリ、右ノ如ク水血引シマリ、氣モ亦凝リテ、
痛痺ヲ覺エ、喘息欬唾、胸背痛ム者故ニ、関上ノ部位ハ、小緊
數ノ脈ヲアラハセリ、コノ胸痺ノ証ハ、陽氣上ニ潛シテ、水
血其処ヲ犯ストイヘ、凡水血ヲ驅散スル所ハ、陽氣長ク七
ビテ、忽ニ斃ル、故ニ、酒ヲ以テ枯薑薤白ノ二味ヲ煎ジテ、
十分陽氣ヲ助ケ、水血ノカラム処ヲ、和緩スル手段ナリ、枯
薑實ハ、太陽下篇ノ小陷胸湯ノ条ニテ説キ示ス如ク、水飲
引シマリテ動カザルヲ、ヨク和スル功アリ、薤白ハ、陽氣ヲ
助ケ、食ヲ消シ、胸中ヲ疏ス功アリ、按スルニ本艸備要ニ曰

言醫傳卷之六
示后車
薤辛苦温滑調中助陽散血生肌泄下焦大腸氣滯治泄痢下
重胸痺刺痛肺氣喘急安胎利產塗湯火傷トアリ平生食料
一シテコレヲ試ルニ胸中開テヨク食ヲ進ル功アリ白酒
ハ濁酒ニ對シテ云タル者ニテス酒ノ一ナリヨキ酒ヲ
諸白ト云白ノ字ノ意ナリ酒ハ一身ノ氣血水ヲメグラシ
陽氣ヲ宣通セシムル一ハ人々ノ知ル所ナレバ解ニ及バ
ズ以上三味ヲ以テ陽氣ヲ助テ胸中ノ水血ヲ温散セシム
ル手段ナリコレ始ノ凡例トコノ条トニ脈ノ部位并ニ病
ノ所在水血ノ格碍シテ胸痺心痛スルハ皆陽虛ヨリ起ル
所以ヲ明カニ示シタレバコノ条ヲ以テ主トシテ餘ノ条
ニモ及ボスベキナリ

○胸痺不得卧心痛徹背者栝蘘薤白半夏湯主之
コノ条ハ上ノ証ヲ受テ今一等迫り強ク水飲胸中ニ滯エ
テ卧ス一ヲ得ガルニ至リテ心胸ノ痛モ亦一等強クシテ
皆ニ徹スルニ至ル証ナリ故ニ前方ノ薤白ヲ減ジ酒ヲ増
シ更ニ半夏ヲ加テ不得卧ノ水飲ヲ驅逐シテ背痛ノ甚シ
キヲ治スルナリ餘ハ前条ヲ以テ消息シテ知ルベシ凡ソ
不得卧ニ數種アリ肺癰喘而不得卧ノ皂莢丸ノ証支飲ノ
喘滿倚息ノ者其外一一枚舉セズ併セ考テ不得卧ニ各差
別アルヲ察スベシ

○胸痺心中痞留氣結在胸胃滿腸下逆搶心枳實薤白桂枝
湯主之人參湯亦主之

コレ同ク胸痺ナレ凡、上ノ二ヶ条トハ、其証少シク異ナル者ナリ、心中ノ痞スルハ、上ノ如ク陽虛ニ至ラズシテ、氣上衝シテ上ニ迫ルヨリ、心中ニ氣ヲ結ビ、水モ迫上シテ、胸中ニ格碍スル症ナリ、故ニ留氣結在胸ト云リ、ソレヨリ下ノ水氣上ニ迫リテ、胸滿ヲナシ、脇下ヨリ逆シ、水ヲ推シ上テ、彼心中ノ痞スル所ノ留氣結在胸ノ部位へ、搶上ルナリ、故ニ脇下逆、搶心ト云リ、サテコノ搶心ノ字ハ、下ヨリ上へムケテ、サシコムヲ云リ、按スルニ字書ニ、搶七羊切、千羊切、並音鋸、説文、距也、周禮秋官職、國有大故、而用金石、則掌其令、註云、用金石作搶、雷推捍之属、揚雄長楊賦、木雍搶累、以為儲胥、又玉篇、木、兩頭銳也、類篇、剡木傷盜曰搶、又稍也、莊子、搶

猶抵也、又七兩切、逆刺トアリテ、ヤリノ物ヲ突キ抜テ、サシコム形状ナレバ、コノ脇下逆シテ、搶心ト云ルハ、脇下ヨリ逆ニ上リテ、心胸へサシコム形状ナリ、故ニコノ逆刺ノ注大ニ且シ、衝心、冲心、撞心、搶心ノ四種共ニ音鋸ニシテ、皆同字義ナレ凡、同シ心ヲツクニモ、其模様ノカハリタルヲ考へ得タレバ、コノ処ニ搶ノ字義ヲ精シク述ル者ナリ、サテコノ註ハ、枳實厚朴ノカ、ル者ナレバ、水ノ凝堅シテ滿スルヲ知ルベシ、桂枝アリテ上衝氣逆ニカ、ル然レ凡、元來胸痺病ニシテ、胸中ノ陽氣ノ行ラザルヨリ起リテ、水血ヲ濡滞サセタル者ナレバ、薤白栝蒴實ハ十クテハ叶ハヌナリ、サテ人參湯亦主之ト云ルハ、胃中ノ陽氣行ラズシテ、

水飲胃上ニ滯リ、夫ヨリシテ心中痞シ、以下ノ病症ノアラハレタル者ニハ、人參湯ヲ與ルナリ、コレ病状ハ同ジケレ
 凡、胸ト胃トノ部位ノ違ヒナリ、然レ凡陰陽易差後勞復病
 篇ニ、大病差後、喜唾久不了者、胃上有寒、當以丸藥温之、宜
 理中丸トアリ、コノ胃上ニ寒アルハ、即チ胸中ニ水飲ノ凝
 滯シタルナリ、理中丸ハ、人參湯ヲ丸藥ニシタル者ナリ、コ
 レニテ根本ノ差別ヲ以テ、同シ形状ナレ、凡、藥方ノ違ヒア
 ルヲ察スベシ、

○胸痺、胸中氣塞、短氣、茯苓杏仁甘艸湯主之、橘枳姜湯亦主
 之、

コノ条モ、同ク胸痺ナレ、凡、陽氣甚タ虚セズシテ、胸中ニ氣
 ノ急迫スルヨリ、水飲下降セズ、上ニ滯リテ、短氣息ドフシ
 クナルナリ、コレ胸中ノ氣ノ急迫ヨリ窒塞シテ、水飲ヲ集
 メテ、短氣トナルナリ、故ニ氣ノ急迫主ニシテ、水飲ハ凝結
 セズ、夕バ上行スルバカリナレバ、茯苓杏仁甘艸湯ヲ以テ
 主トスルナリ、又同シ病状ナレ、凡、水飲ノ凝結甚シクシテ、
 ソレニツレテ、氣モ共ニ迫リテ塞ル者ハ、水飲ヲ目當トシ
 テ、其凝結ヲ破碎スル為ニ、橘枳姜湯ヲ以テ主トスルナリ、
 コレ亦同病ニシテ、氣ト水トノ主客、凝結ト、夕バ流行セガ
 ルトノ差別ニテ、二方ヲ處シタルナリ、
 △肘後、千金云、治胸痺、胸中幅々如滿、噎塞、習々如痒、喉中澀、
 唾沫、

コノ附録ハ、橘枳姜湯ノ証ニシテ、肘後千金ノ活用ヲ示サ
 ントテ、坊本ニハ、本条ノ細注ニ奉タリ、サテ同ク胸痺ニシ
 テ、胸中ノ気モ引シメラル、様ニ思テ、胸滿スルガ如クナ
 レド、真ノ胸滿ニアラサル故ニ、幅々如滿ト云リ、コレ水飲
 食物、俱ニ胸中ニ凝テ、行ラサル故ニ、噎塞スト云リ、噎ハ後
 世ノ膈噎ト同ク、食物等喉胸ノ間ニツマリテ、下降セサル
 ナリ、コレツマリテ塞ルヲ云リ、又水飲食物等、胸中ニアリ
 テ、噎塞シ、気モ俱ニ滯レド、橘枳姜湯ノ証ナレバ、水飲ノ為
 ニ、引トメラレタル者ニシテ、気ハ客ナレバ、胸中ニテ、アチ
 ラコチヲト、動テ止サル故ニ、ウザク痒キヤウニ思エドモ、
 真ノ痒ニアラズ、依テ習々如痒ト云リ、習々ハ、気ノ聚散ニ

ツレテ、ウザクト痒キ負ナリ、右ノ如ク水飲胸中ニ凝リテ、
 喉中ニ滋潤ヲ失シ、渋リテカラツク故ニ、涎沫モ皆ヒツ、
 キ燥キ、舌上并ニ口中ニ、粘着シタルガ如ク、カラクヒアガ
 リタル沫ヲ、唾バキスルナリ、故ニ口中渋、唾燥沫ト云リ、燥
 沫ノ名、實ニ妙ナリ、燥沫トハ、俗ニ子ヂキル様ナ痰沫ヲ、唾
 スルト云フナリ、コノ橘枳姜湯ヲ、呃逆ニ用ルコトアリ、コレ
 ハ橘皮湯ノカ、ル証ヨリハ、今一尋水飲ノ凝結強クシテ、
 呃逆ヲ発スル者ニ功アリ、橘皮湯ノ証ト、併セ考フベシ、

○胸痺、緩急者、薑朮附子散主之、

コレ胸痺、緩急トバカリ云テハ、其証分明ナラズ、故ニ三因
 方ニアル病状ヲ、附録ニ奉テ、コノ緩急ノ意、并ニ本方ノ目

當ノ証ヲ詳ニス、次ノ附録ニテ、其分明ナルヲ、會得スベシ。

△三回方云、病者心下堅滿、痞急痛、肌中苦痺、緩急如刺、不得俯仰、其胸前皮皆痛、手不得犯、薑朮附子散主之。

コノ症ハ少シノ起居モ出来ズ、實ニ危篤ニ見ユル者ナリ、サテ心下堅ク滿シテ、痞鞭シ、腹以上、胸肋心胸ヘカケテ急痛シ、一身尽ク痺レ、肌層酸痛シテ、足ニ有ルカト見レバ、手ニ至リ、胸ニアルカト思ヘバ、背ニ至リテ、處ヲ定メ、サレガ故ニ、緩急如刺ト云リ、元ヨリ一身手足、俱ニ痿痺シテ、俯スルモ仰クルモナラズ、殊更心下ヨリ、肩先ニテノ間、左右脇肋、心胸ノ上皮、甚シク酸レ痛デ、手ノサエラレヌノミナラ

ズ、衣被ノ類ニテモ觸ル片ハ、其痛ニ耐ズシテ、叫呼涕泣スル者ナリ、コノ証ハ、實ニ不治ノ症カト見ユルナリ、コレタゞ陽氣行ラザルヨリ、一身ノ血、少シモ宣通セズ、内外ノ水血、皆濡滯スル故ニ、一身共ニ酸痛スルナリ、回テ薑朮仁、附子ノ二味ニテ、陽氣ヲ引ノバシ、血滋潤ヲ失テ、枯燥シテ甲錯スル所ヲ、和スレバ治スルナリ、コレ至テ希ナル病証ニテ、余モ未ダ多クハ見ズ、一男子年二十三、一身麻痺シテ、下部殊ニ甚シ、前医ハ味丸料等ヲ用ヒシニ、タシク麻痺強ク、腹部ヨリ、胸膈心中ニテ、急痛シテ、手足共ニ麻痺シ、胸ノ處痛甚シク、此ノ如クニシテ、段々危篤ニ及ビタリ、余ニ診ヲ請フ、余診スルニ、脈浮弦ニシテカタク、一身手足、俱ニ麻痺

シ、胸前皮痛テ、手ヲサユルノ能ハザルノミナラズ、試ニ手
 拭ノ端ヲ以テ、少シク胸前皮ニ觸レタリシニ、痛ニ耐ズシ
 テ、色ヲ揚テ哭泣セリ、前医コノ病状ヲ、シカト認得サルノ
 口上ニテ、余ニ託ス、乃チ薑朮附子散ニ、甘艸ヲ加テ煎服セ
 シメシニ、明日ニ至リテ、手拭ヲ以テ、胸前ニ觸レテモ、痛ナ
 シ、故ニ手ヲ以テ輕ク撫スルニ、少シハ痛メ、昨日ニ比ス
 レバ、十二七八ヲ減シタリ、ソレヨリ段々腹診モセララル、
 様ニナリ、手足モ動キ、起居モ傍ヨリサセラル、様ニナリ
 タリ、コノ病人ハ若年ナレバ、外見ハ元氣モ強キヤウニ見
 エレ、凡、コノ病証ヲ患ルヲ見レバ、世上ノコトニ、勉強辛苦シ
 テ、元氣虚シタルト見エタリ、大半治スル後ニ、手足ノ麻痺

殊ニ甚シ、冬ニ向テ厥寒スルト云リ、故ニ當飯四逆加吳茱
 萸生姜湯ニ、干姜附子葛根ヲ加テ與エシニ、翌春ニ至リテ、
 十カ九ハ全快シタレ、凡、藥用ニ退屈シテ休藥セリ、漸ク此
 等ノ病者、一兩人バカリヲ診シタリ、珍シキ病症ナリ、葛ト
 心得テ、治ヲ施スベキナリ、

○心中痞、諸逆、心懸痛、桂枝生姜枳實湯主之、

コノ条ハ、氣心中ニ逆スルヨリ、一切事物ニ觸レバ、逆上シ
 テ、其処へ水氣ヲ引上テ痛ム証ナリ、コレ元來陽氣ノ舒サ
 ル処アル故ナレバ、少シノコトニモ、逆上強クシテ、心中益痞
 スル者ナリ、其痞スルニ回テ、又色々ノコトニモ逆上ス、故ニ
 諸逆ト云リ、ソレヨリシテ、下ニアル所ノ水ヲ引上テ、心中

ニテ痛ムナリ、コレヲ心懸痛ト云、コレ心中痞スル処ヨリ、
 下ノ水ヲ引上ゲテ、中ニ懸リタル如クニシテ痛ム、故ニ懸
 痛ト云リ、十枣湯ノ懸飲内痛ノ懸ノ字ト同意ナリ、気ノ上
 逆ニ、桂枝ヲ以テシ、水ノ堅凝シテ痛ムニ、枳実ヲ以テシ、引
 上ラレテ動ク水ナレバ、生姜ヲ以テコレヲ和ス、見ツベシ
 コノ三味ヨク相和シテ、此証ヲ治スルヲ、

○心痛徹背、背痛徹心、烏頭赤石脂丸主之、

コノ条ハ、前二个条ノ薏苡附子散ト、桂姜枳実湯トヲ受テ
 見ルベシ、二方ノカ、ル病状ヲ、一ニシテ患ルニ似タリ、薏
 苡附子散ノ、胸前皮ノ痛ハ、背マデモ貫ケ、凡陽氣宣ズシテ、
 血分ノ不和ヨリ起リ、桂姜枳実湯ハ、気心胸ニ集リ凝リテ、

其処へ水飲ヲ引上テ痛ムナリ、コノ証ハ、薏苡附子散ノ如
 ク、陽氣宣ズシテ、血分ノ行ラザルヲ、一等甚シク、ソレガ為
 ニ、心胸背ニ徹シテ、血マスキ凝リ、水モ俱ニ行ラザルナリ、
 コレ陽氣ノ宣ザルヲ主トシテ、血分行ラズ、ソレニツレテ、
 水氣モ行ラズシテ、痛心背ニ貫ク者ナリ、コノ方ハ附子ト
 烏頭トヲ組合セタリ、或家ニ附子ヲ、一切烏頭ニ換用ルト
 聞リ、此等ノ方ハ、烏頭ノ分量ヲ増シテ用ルカ、附子半兩烏
 頭一分ノ分量ナレバ、烏頭ヲ増サバ、徒ニ瞑眩ノミシテ、功
 ナカラン、考フベキナリ、蜀椒干姜ハ、大建中湯ノ主意ニ
 似タリ、赤石脂アリテ、血ノ溢レ迫ル所ヲヨク和ス、シカシ
 次ニ新補スル所ノ、三回方ノ病状ニテ、其精キヲ考フベ

シ、赤石脂ハ、血分ヲシメル物ナレ、凡、水ヲ行ラス功モアリ、ヨク考フベシ、

△三回方、痞気圓、治脾之積、在胃管、覆大如盤、久々不愈、病四肢不收、黃疸、飲食不為肌膚、心痛徹背、々痛徹心、脉浮大而長、

コレ三因方ニハ、方名ヲ痞気圓トナセリ、コレ脾ノ積ヲ痞気ト名ク、其積ヲ治スル故ナリ、サテ陽気宣ガルヨリ、水血胃管ニツマリテ、覆大盤ノ如クニナリテ、ソレヨリ四肢痿弱シテ、自由ナラズ、水血莖セテ、黃疸トナリ、飲食ハ常ノ如クナレ、凡、一身ノ營養ニナラズ、肌膚肉脱シ、其上ニ胃管ニアタル処ノ水血、イヨク凝リ、陽気マスキ行ラズシテ、心痛

背痛、相貫テ痛ク、其脉浮大而長ナルニ至ル、浮大ハ内ニカタクシテ、外表ヘハリ出ス脉ナリ、長ハ短ノ反ニシテ、内外相貫テ、水血ノ陽気ヲカラム脉ナリ、コレ方ニヨリテ見レバ、脉ハ沈微ナルベケレ、凡、四肢不收シテ、黃疸ニナリ、痛強キ故ニ、脉ハ至テ勢ノアル様ニ見ユルナリ、コレハ胸痺ニテ、心痛ノ甚シキ証ニシテ、中風不遂ノ病ニ、心背ノ痛ヲ添エ、黃疸ヲ兼タルヤウニ見ユル病状ナリ、

○九痛丸、治九種心痛、

コノ条ノ上ニ、一本ニハ附方ノ二字アリテ、文モ附方ノ例ナレ、凡、何ノ書ヨリ出ル凡、知レザル故ニ、今附方ノ二字ヲ削リテ、本条トナスナリ、サテ九種ノ心痛ハ、按スルニ三因

方二曰、喪痛、回蛇虫痛、見唇有紅、疰痛、尸疰、勞瘵、風痛、風邪、悸痛、驚悸、食痛、飢飲痛、飲痛、飲痛、冷痛、寒熱痛、暑往來痛、故其痛或來或止、熱痛、曰氣鬱、ト云リ、コレ九種ノ心痛ノ名目ナリ、コノ方ハ急病ニテ取り結メ、痛甚シキ者ニ用テ妙ナリ、紫圓、備急圓ノ類ニシテ、巴豆劑ナレ、凡其証各少シ宛ノ差別アルヲ察スベシ、方後ニ九痛ノ外ニ兼治ノ証ヲ出セリ、卒中惡トハ、俄ニ胸ワルクナリテ、心胸腹痛ヲナシ、不大便煩躁、角弓反張等ノ急病ニテ惱ム者ナリ、沈氏曰、中惡謂絞腸烏痧、即臭穢惡毒之氣直自口鼻入心胸腸胃藏腑、壅塞正氣而不行、故心痛腹脹、大便不通也ト云、見ルニ後世ニテ痧病ト云証ナリ、故ニ腹脹痛、口不能言ナリ、又連年ト年ヲ重子テ愈エサル疰ヲ積冷ヲ治ス、積冷ト

ハ、積氣冷氣ナレ、凡冷ヲ積テ、水血凝結シテ痛ム者、流注トテ、其痛諸方ヘクバリテ定ラズ、或ハ一疰ニ凝リテ、水毒膿潰シテモ、又外ヘモクバリテ、出来ルアリ、又水血迫リテ、心胸痛ミ、冷腫トテ、俗ニ云ヒエニテ、水血行ラズシテ腫レ、上逆上気スル者、其外一切打撲マテヲ治ス、故ニ落馬、墜車、血疾等、皆主之ト云リ、方中ノ生狼牙ヲ、三回方ニハ、狼毒ニ作レリ、俱ニ本艸毒艸ノ部ニアリ、コノ生狼牙ハ、近年マテ詳ナラザリシニ、蘭山小野氏、關東ヘ下向ノ時、信州木曾ニテ、始テ採ラレシヨリ、今ハ京師ニモ移種ルヲ得タリ、毛茸ノ類ノヤウニ見ユ、親ク視ガレバ、其形状ヲ知得ガタシ、以上、胸痺心痛篇、通計十四个条、本条、凡例、附録等備リテ、病

古言醫傳卷十六

志ノ衰化ヲ尽セリ、

示房車赤

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

○辨腹滿寒疝宿食病脉證并治法第十一

コノ篇ハ、腹滿ニ、虛実ノアルヲ示シ、寒疝ニ、劇易ヲ示シ、食滞ニ、吐下ノ差別アルヲ示シタリ、始ノ凡例ハ、腹滿ハカリニテ、実滿ノ凡例、并ニ腹中寒氣、心胸中寒氣等ノ凡例モ、俱ニナケレド、コレハ寒疝ノ凡例ニ、含ンテ見ルベシ、古書ノ「故、殘欬多ケレド、他書ヲ以テ、尽ク補ヒガタシ、覽者」レヲ察セヨ、

□ 趺陽脉微弦、法當腹滿、不滿者、必便難、兩胠疼痛、此虛寒從下上也、當以温藥服之、

趺陽ハ足ノ趺上ノ脉ニシテ、經篇ニ徃々コレヲ説リ、其脉ノ微弦ナルハ、胃中ノ運行アシクシテ、胃外ノ水氣ト俱ニ

滯ルナリ故ニ法當腹滿ト云リコレ実シテ腹滿スルニア
ラズ胃中和セズシテ水ト気ト胃外ニ滯リ腸中以下ニハ
下降セザル故ニ不滿者必便難ト云リ便難トハ大小便俱
ニ通シ難キナリ胃中メグラザルヨリ水気モ行ラズシテ
腹滿スルカ又腹滿セザル者モ水気内ニ凝滯シテ便難ト
ナリ左右ノ脇腹トモニ疼痛スコレノ疼痛ハ水気ノ所為ナ
レ凡陽氣ノ行ラザルヨリ此ノ如クニナルナリ故ニ此虚
寒從下上也ト云リ虚寒ノ下ヨリ上ルト云フハ聞ナレヌ
語ナレ凡下部ノ陽氣乏シク胃中モ衰テ行グリアシクナ
リテ腹滿シタリ又ハ滿セザル者ハ左右ノ脇腹疼痛シテ
大小便俱ニ通シ難シコレノ腹滿ハ実証ニアラズ又両胠疼

示忌車疾

痛モ陽氣胃中ヲ養ス不能ハザルノ虚寒ノ証ニシテ下部
ヨリダシク不行ニナリテ両胠疼痛ニ至ルヲ以テ下ヨリ
進ミ上ルヤウニ見ユル故ニ此ノ如クニ言タルナリ皆虚
寒ノ志ナレバ當以温菜服之ト云リ按スルニ字書ニ胠ハ
腋下ノ腋トアリテ横腹ヲ云リ跌陽ノ脈ハ足ノ甲ノ脈ナ
レ凡胃中ヲ候フガ主ナレバ左手ノ関部モ共ニ用テヨク
胃氣ノ旺衰ヲ察スベシコレ胃氣ノ衰エタルヨリ腹滿
シタリ又ハ便難兩胠疼痛ヲ患ル証ナリ

口腹滿時減復如故此為寒當与温菜

コレ亦虚寒ノ腹滿ヲ示シタル凡例ナリ夫腹滿スル者ヲ
見ルニ其病証ノ解スルニ付テダシク減ズルハ一通リ実

証ノ腹滿ナルニオリク減シテ復タ故ノ如クナルハ実証
 ニアラスコレ陽氣衰乏シテ水血ノ行ラザルヨリ来ル者
 ニシテ氷ノ閉塞シタルガ如シ故ニ此為寒ト云リコノ寒
 ノ字虚寒ノ前条ヲ受ケ又閉テ行ラザル傷寒ノ寒ノ字ノ
 意ヲモ含メリ元来虚寒ノ為ニ水血寒洩シテ此ノ如クニ
 腹滿ノ減復アル者ナレバ陽氣サへ行レバ自ラ腹滿ハ和
 スル故ニ當与温藥ト云リコレ氷ニ熱湯ヲソ、ダト同じ
 手段ナリ

口病者腹滿按之痛者為実不痛為虚
 コノ凡例ハ腹滿ニ虚実ノアルヲ示シタルナリ然レモ痛
 ト不痛トバカリニテハ急度證拠トモ言難シコレ虚実ノ

大休ヲ示シタルニテ委ク言フ片ハ痛ム者ニモ虚実アリ
 不痛者ニモ虚実アリ甚タ診シ難キ者ナリ故ニ痛不痛ノ
 上ニ脈ノ虚実又ハ按テカアルト死キトヲモ診察スベシ
 遷テ、一種ノ病状ヲ以テ虚実ヲ決定スベカラスコレ患
 者ニ臨ンテ第一ニ心ヲ用ユベキナリ

○病腹滿發熱十日脈浮而數飲食如故厚朴七物湯主之
 コレヨリ本条ニシテ以下ノ四个条共ニ皆実証ノ腹滿ヲ
 出セリサテ胃中ニ実スル処アリテ腹滿シ其氣外ニ向テ
 表熱ヲ帯ルナリコレ内実シナガラ上ニ迫ラズシテ其氣
 外ニ向フ故ニ表ニ熱ヲ帯ルナリ十日トアルハ俄ニ發熱
 シテ表証ヲ帯タルニアラス腹滿スル所ノ裏熱ノ勢外迫

シテヨリ、来ル発熱ナレバナリ、故ニ十日ノ日数ヲ以テ、腹
 満ノ餘焰ノ外攻シテ、発熱スルヲ示シタルナリ、コレ内ニ
 気ノ迫リアルヲ以テ、外ハ発熱シ、内ハ腹満スル故ニ、脉ハ
 浮而数トアレ、凡、上心胸ニハ迫リナキ故ニ、飲食ハ如故ナ
 リ、コレ表ニ発熱ハアレ、凡、腹満ノ餘焰ニシテ、惡風寒モナ
 ケレバ、別ニ表外ヲサバキテ、後ニ下ス証ニハアラズ、只厚
 朴七物湯ヲ以テ、内外一緒ニ散下スレバ、治スルナリ、コレ
 分量ハ異ナレ、凡、桂枝去芍薬湯ト、厚朴三物湯トヲ合シタ
 ル方ナレバ、内外俱ニカ、ル所ヲ察スベシ、

○痛而閉者、厚朴三物湯主之、
 コレ上ヲ受テ、同夕実証ノ者ヲ出セリ、病腹満ノ三字ヲ、

コ、ニモ受テ見ルベシ、コレ上ノ条ト、同ジ腹満ナレ、凡、コ
 ノ条ハ発熱スル程ニ、外ニハ迫ラズ、裏ニノ凝テ痛ム者
 ニシテ、閉トテ、大便閉ル証ナリ、故ニ桂枝去芍薬湯ナシニ
 厚朴三物ヲ以テ主トスルナリ、

○按之、心下満痛者、此為実也、宜大柴胡湯主之、

コレ心腹満ノ二字ヲ、上ニ置テ見ルベシ、同夕実証ノ腹満
 ナレ、凡、按之テ心下ノ満痛スルハ、胃中ヨリ少シク上部、少
 陽ニ迫リタル者ニシテ、陽明ノ部ノミニアラズ、故ニ大柴
 胡湯ニテ、下スベキ者ナレバ、宜大柴胡湯主之ト云リ、宜主
 之トアル処ハ、經篇ノ合病ノ麻黄湯ヲ始メ、精ク示シタレ
 バ、コ、ニ畧ス、コレ同シ実証ノ腹満ニモ、発熱ヲ帯ル者ト、

痛而閉ル者ト、心下滿痛スル者ト、各異ナル所アリテ、藥方モ亦差別アリ、潛思シテコレヲ考フベシ、

○腹滿不減、減不足言、當須下之、宜大承氣湯、

サテ上ノ三个条ノ中ノ腹滿ノ症アリテ、厚朴七物湯カ、厚朴三物湯カ、又ハ大柴胡湯ヲ与エテモ、少シモ減セス、又減ジタリ、凡、少シバカリニシテ、減ズルト云レヌハ、實ニ胃氣ノ十分實滿シタル者ニ、違ヒナケレバ、大承氣湯ヲ以テ下スベシトナリ、併シ宜トノミ云ルハ、大承氣湯ヲ与エテ、大実ヲ碎キテ後ニ、亦前条ノ三方ノ中へ立戻リテ、用ルノアラシカヲ含ミタルナリ、以上四个条、各差別アレ、凡、俱ニ実証ノ腹滿ヲ示シタルナリ、

○腹中寒氣、雷鳴切痛、胸脇逆滿、嘔吐、附子粳米湯主之、

コレヨリ以下四个条ハ、虚寒ノ腹滿ヲ奉タルナリ、然レハ腹中ト云、心胸中ト云、脇下偏痛ト云、腹中寒氣厥逆ト云テ、別ニ腹滿ト云サルハ、虚寒ノ証故ニ、腹滿ノアルモアリ、无キモアリテ、一定ナリ難ク、假令腹滿アリテモ、目當トナラザル故ニ、ワザト奉ザルニ似タリ、コノ腹滿ハ、実滿トハ其形大ニ異ナリ、コレ亦兼テ其心得ヲ以テ、診察スベシ、サテコノ症ハ、陽氣衰乏シ、血寒内伏シテ、水氣ト和合セズ、少シノ冷氣モ、一身ニ當リテ、腹中ヨリ心胸ノ間、ヒヤクスルヤウニ覺エ、食物心下ニ停滯シテ、忽チ切痛シ、水飲徒ラニ動搖シテ雷鳴シ、食飲上ニ滯リテ、胸脇逆滿シ、常ニ嘔吐シテ

食物納ラズ、コレ皆心氣ヲ勞シ、氣血ノビズシテ、陽氣大ニ衰ルヨリ、得タル所ナリ、甚シキ片ハ、脊推ニ堅凝シテ、胸痺ノ心背微痛スルガ如ク、食氣絶テ、數十日嘔吐止ズ、一身疲羸シテ、少シノ勞カニモ耐ズ、實ニ危篤ニ見ユル病ナリ、余コノ病恚ヲ見ルノ數十人、其因ヲ推スニ、皆勤苦シテ心ヲ勞シ、其上ニ酒肉ニテ、暫時ノ愉快ヲ取り、日ヲ經月ヲ踰テ、終ニコノ証ニ陷ル者多シ、コレ元ト百合ノ一毒アル人、陽氣衰乏シテ、宜ビガルヨリ、此ノ如クニナルナリ、故ニコノ証ハ、ダンク治スルニ及テ、陽氣舒緩ナル片ハ、必ズ一身ニ瘡毒疥癬ノ類ヲ發ス、コレ全快ノ證拠ナリ、其未ダ瘡毒ヲ發セザル以前ニ、病狀ノ退クヲ以テ、休藥スル片ハ、前恚再

發シテ、不治ニ至ル者、徃々コレアリ、サテ三因方ニ、コノ病狀ヲ精ク論ジタリ、其語ニ曰、附子粳米湯、治憂怒相乘、神思不守、思慮兼并、擾亂藏氣、不王傳導、使諸陽不舒、反順為逆、中寒氣脹、腸鳴切痛、脇胸逆滿、嘔吐不食、トアリ、勿論コノ方ハ五味ナレ、凡三因方ニハ、干姜ヲ加テ六味トナセリ、コレ皆憂怒思慮ニヨリテ、神思守ラズ、藏氣ヲ擾亂スルニ至リ、一身ノ陽氣ノビズシテ、此病ヲ釀ス者ナリ、故ニコノ病恚ヲ治セント欲スル片ハ、先一切魚肉酒漿等ヲ禁シ、夕、至テヨク煮熟シタル、白粥ヲ二椀ツ、ニ、輕キ菜蔬ヲ添エテ与フベシ、慎テ他ノ食味ヲ用ルノナカレ、此ノ如クニシテ、ヨク撰生培養スル片ハ、必全快ヲ得ベシ、又全快シテモ、惣

身ニ瘡毒痒痛ノ類ヲ発セザル以前ハ、休薬サスヲナカレ、
余コノ病ヲ多ク診察シタル中ニ、一月二月ニテ治シタル
モアリ、又一年二年モカ、リタルモアリ、其中ノ劇証ヲコ
、ニ挙ケ示サン、一婦年五十バカリ、始ハ反胃ナリトテ、諸
医十二三人ヲ轉ジタレ、凡ソ七八月ヲ経テヨリ、
日日食ヲ吐シテ止ズ、始ハ朝ニ食シテ、暮ニ吐シ、暮ニ食シ
テ、朝ニ吐セシカ、凡、後ニハ朝ニ食シテ、昼ニ吐シ、昼ニ食シ
テ、暮ニ吐スルニ至ル、又一等甚シキニ及シテ、食スレバ直
ニ吐シ、又一等劇キハ、食セザレ、凡、食臭ヲ聞バ、直ニ吐シ、又
ハ食セント欲スレバ、頓ニ吐シ、或ハ食スベキ時刻ニ至レ
ハ吐シテ、食穀一粒モロニ入ザル、凡ソ五十日バカリニ

及ベ、凡、吐スル物ハ、皆米穀ナリト云リ、最モ後ニ預リタル
医者ハ、モハヤ術ノ施スベキナシトテ、素焼ノ土器ヲケツ
リテ、コレヲ与エ飲シムレ、凡、皆吐シテ受ズ、実ニ手ヲ束子
テ、死ヲ待クノミト云テ、余ニ其病状ヲ訴テ、一診ヲ乞フ、余
診スルニ、惣身羸瘦シテ骨立セリ、言語挨拶等ハ常ノ如ク、
又褥中ニ起卧スル、一モ、傍人ヲカラズ、脉ヲ診スルニ、微緊
ニシテ細数、左ノ関上ノ脉ヨリ、寸口ニカケテ、微緊ノ中ニ、
築動スル気味アリ、サテ日日三度ツ、食ノ時刻ニ及ベバ、
必ス嘔吐シ、其吐スル前ニ至レバ、腹中雷鳴切痛スル、一、錐
ヲ以テ腹中ヲ刺ガ如ク、不大便凡ソ五十日以上ニ至ル、勿
論絶食モ五十日ナレバ、大便ハシカルベキ、一ナルベケレ

氏、日日吐スル物ハ、穀物ナルヲ甚以テ不審ナルヲナリ、思
 フニ是レ腹中ニ陽氣ナク、脾胃ノ氣行ラズシテ、穀ヲ消磨
 スルカナキ故ニ、以前ニ食シタル米穀、ソノマ、胃管ニツ
 マリテ、下降セザル者ト見エタリ、余カ診セシ時ハ、食ノ時
 刻ヨリモ一尋進ンデ、飯ノ熟シタルト云フ言ヲ聞バ、腹中
 雷鳴切痛シテ嘔吐ス、実ニコレ造イカナル方ヲ處セシヤ、
 百日以上モ嘔吐ヤマズ、故ニ凡ソ及胃膈噎ノ類ハ、百日ニ
 満ルハ必死ト云フヲ、病人モ聞テ、覚悟ヲ極メテ、驚ク氣色
 ナシ、腹ヲ診スルニ、心胸ノ間ニ動氣アリ、心下腹下ニ連リ
 テ、左ノ方ニアリ、又心下ヨリ、左ノ股肱ニ連リテ、積塊ノ如
 キ物アリテ、切痛スル片ハ、必ズ心胸ノ間ニ突上ス、腹肉ヤ

セテ、皮ハカリニナリ、肋骨モ、頤ヲ以テ計フベキ程ニ、癰瘡
 セリ、余時ニ附子粳米湯六貼ヲ与エ、飯リヌ、而三四貼服ス
 ル頃ヨリ、上ハ水飲ヲ吐スルヲ一升バカリ、下ハ下利スル
 ヲ、余汁餘、小水モ亦一升バカリ通ズルニ及ンデ、嘔吐ハ
 トント止ミタレ、氏、夫ヨリ腹滿シテ、腹皮水氣ヲ帯ビ、皮一
 パイニ腫テ、俗ニ云ギンバリタリ、食俄ニ進テ、頻リニ飢テ、
 頻リニ食シ、下利スルヲ一日ニ兩三行、一度ニ一升強ナリ、余
 其食ノ進ムヲ禁シテ、白粥二碗ニカギリ、ソエ物ハ菜蔬ノ
 輕キ物バカリヲ、十分煮熟シテ食セヨト、日日再三至囑ス
 レ、氏、五六十日モ絶食シタルヲナレバ、飢ニ堪エズトテ、少
 シモ聞入レズ、故ニ又其子ニ、トクト示シテ、大事ノ養生ナ

言醫傳 卷一
レバ決シテ食ヲ与ルヲ勿レト、キビシク云付タレ、母ノ
一故ニ、飢渴ニ耐ザルヲ見ルニ忍ヒズトテ、鯉鮒ノ類、其外
鰻鱺ノ類ヲ与ルヲ見テ、姑息ノ愛ナリ、眞實ニ母ヲ太切ニ
スル、仕業ニアラズト云テ、頻リニ禁スレ、凡聞ズ、終ニハ口
留メ、咽ジメヲスル療治ハ聞ズナド、ソロク嘲哂スル口
上ヲ聞テ、再ビ其家ニ至ラズ、一旦危篤ヲ救ハレシ一故ニ、
人ヲ以テ再三招請スレ、凡養生ノ法ヲ守ラザル者ノ、全快
シタルタメシナシトテ、固辭シ、終ニ絶交シテ、取合ザリシ
ニ、其後一年バカリハ、ナムクシテ居タル様子ナレ、凡病証
元ノ如ク再発シテ、死シタリト聞リ、實ニ惜ムベキ一ナラ
ズヤ、シカレ、凡一旦ノ病苦ヲ救ヒ、一年半ノ命ヲ引延シタ

ルハ偏ニコノ附子粳米湯ノ功能ナリ、其外後世ニテ僻囊
病ト称スル者、皆コノ証ト同病ナリ、兎角世上ニテハ、病名
ニモタレテ、脈証ヲ審ニセズシテ、終ニ固疾トナシ、不可藥
ト至ル者多シ、ヨク心ヲ用テ、八条目ヲ忘ル、一勿レ、
○心胸中、大寒痛、嘔不能飲食、腹中寒、上衝、皮起出、見有頭足、
上下痛、而不可觸近、大建中湯主之、

コレ上ノ条ノ腹中ノ寒氣、一等上衝シテ、心胸中ニ客シ、冷
痛甚シク、腹中モ、ヤハリ寒痛シ、胸脇腹部ノ上皮モ、少シク
冷ル様ニ覺エテ、寒痛ノ甚シキヨリ、何ニヨラズ嘔シテ、飲
食スルヲ能ハザルノ証ナリ、コレ陽氣行ラズシテ、水氣凝
リ、血分内伏シテ、陽氣ト共ニ引シマルヨリ、腹中寒テ、上衝

スルナリ、サテ腹ヲ按スルニ、心下ヨリ腹下ニ至ルマデ、皮
 高ク起リ出テ、グレクトシテ、頭足アル如キ物、上下シテ痛
 ムナリ、コノ上下ヲ、頭足ノ上下ニモ、カケテ見ルベシ、又心
 胸中ノ痛ノミナラズ、腹中モ痛ム証ナレバ、上下痛ト見テ
 モ可ナリ、コレ陽氣行ラザルヨリ、血凝結シ、水モ共ニ流行
 セザルガ故ニ致ス所ナリ、コノ証痛甚シクシテ、手モサエ
 ラレヌ者ナリ、故ニ不可觸近ト云リ、シカシ上皮迄モ痛ム
 所、胸痺ノ薏苡附子散ノ証トハ、少シク異ニシテ、其頭足
 アル塊物ニ、觸レ近クベカラザルナリ、至テ虚危ニ見エテ、
 病人ノ困苦ノ甚シキ証ナリ、心ヲ用テ診察スベシ、コノ方
 中ノ痛ヲ和シテ、陽氣ヲ復ス、故ニ建中ノ名アルナリ、

○脇下偏痛、發熱、其脉緊張、此寒也、以温藥下之、大黃附子湯
 主之、

コレ上ノ二个条ノ腹中ノ寒痛ノ者ヲ受テ、同ク陽氣舒ズ
 レバ、腹痛々ルニモ、腹下ニ偏リテ痛ム者ヲ出セリ、コレ其
 人左右ノ腹下ニ、僻スル所アリテ、宿物ノ為ニ、コノ寒痛ヲ
 引ヨセラレタルナリ、宿物ノアル人ハ、夕トヒ陽虚ノ目當
 アリテモ、發熱スル所ニ、少シク実ヲ帶テ、水血ノ凝結、一段
 劇キ故ニ、其脉緊張トナルナリ、然レハ陽氣ノ不行ヨリ、水
 血ノ寒凝シタルニ、チガヒナキ故ニ、此寒也ト云リ、寒ヲ目
 當ニ、附子細辛ヲ用レバ、其水血ノ寒凝甚シキヨリ、緊張ノ
 脉ト、發熱トヲ、アラハスヲ以テ見レバ、実シタル所アルヲ

以テ、大黃ニテ、其實ヲ下スナリ、故ニ以温藥下之ト云リ、前ノ実証ノ腹滿ノ、下劑ノカ、ル者トハ、大ニ異ニシテ、寒氣ヨリ、実ニナリタル証ナレバ、附子細辛ニテ、水血ヲ行ラシ、陽氣ヲ助ルバカリニテハ、偏痛發熱、脈ノ緊張、和シガタシ、故ニ附子細辛ノ上ニ、大黃ヲ入タルナリ、太陰篇ノ大実痛者、桂枝加大黃湯主之ト云ヨリハ、今一段、虚寒ノ症ニシテ、コノ実寒ヲ扱ミタルナリ、故ニ救ヒ温ムル藥ニ、大黃ヲ入ラ下スナリ、コノ証偏痛ト、發熱ト、脈ノ緊張トニテ、実ヲ扱ミタル、実腹滿ナルヲ明カナリ、其外附子粳米湯ニ、承氣丸ヲ兼用スル証アリ、又大黃ヲ加ルモアリ、又大建中湯ノ証ニモ、承氣丸カ、大黃ヲ加ルモアリ、皆陽氣ノ不足ヲ以テ本

トスレ、凡、大黃ノカ、ル所ノアルヲ察知スベシ、
○腹中寒氣、厥逆、赤丸主之、

コレハ上ノ附子粳米湯ノ証ノ如ク、腹中寒氣ノ証ナレ、凡、雷鳴切痛モナク、嘔吐モナク、只腹中ニ十分水血寒凝シテ、手足ハ勿論、一身共ニ厥逆スル証ナリ、坊本ニハ腹中ノ二字ナシ、腹中ノ字ナクシテ、寒氣厥逆トバカリニテハ、其主意ヲ得難シ、故ニ一本ニ從フテ、腹中ノ字ヲ補フテ、附子粳米湯ヨリ来ル所ノ、厥逆ナルヲ知ラシム、コノ証ニ腹痛ノ甚シキ者モアレ、凡、凝結甚シクシテ、雷鳴ハナシ、前条ノ温藥ニテ下ス者トハ、異ニシテ、烏頭ノカ、ル者ナレバ、コノ次ノ寒疝ノ扱ヲ、帶タル証ナリ、其意ヲ以テ解スベシ、寒

疝腹痛ニ粗似々ル病状ナリ、コノ方酒カノ温煖ヲ以テ、藥
カヲメグラスナリ、千金ニハ、附子二兩、射罔如大棗一兩ト
アリテ、俱ニ六味ニシテ、真朱ヲ加エタリ、射罔ハ、艸烏頭ノ
煎ジツメタル物ナリ、附子ト、烏頭ト、射罔ト、同ジ類ナレバ、
三物ノ入タルヲ以テ、コノ腹中寒氣厥逆ノ甚シキヲ察ス
ベシ、以上四个条ハ、各虚寒ノ腹滿腹痛ナリ、始ノ実証ノ腹
滿ト、合シテ八个条ヲ以テ、虚实ニ腹滿腹痛アルヲ示シ
タルナリ、

口腹痛、脉弦而緊、弦則衛氣不行、即惡寒、緊則不欲食、邪正相
搏、即為寒疝、

コレヨリ寒疝ノ凡例ヲアゲテ、次ニ本条ヲ出セリ、己ニ前

條ノ赤丸ノ烏頭ノカ、ル証ガ、乃チコノ寒疝ノ催シナリ、
サテ腹痛ハ、前ノ八ヶ条ニ示シタリ、同シ腹痛ニテモ、寒疝
ノ腹痛ハ、虚寒ノ甚シキ者ナレバ、ヒヤクスル寒氣ノ気味
ナク、痛甚シケレバ、寒凝シテ、手足モ逆冷スルニ至ルノ疝
ニシテ、腹痛大ニ異ナリ、夫レ腹痛ノ病、脉ノ弦而緊ナルハ、
弦ハ氣行ラズ、タビ中ニテ引バルバカリニテ、表マデ氣ノ
達セザルナリ、故ニ弦則衛氣不行ト云リ、不行ハ、恠環流行
ヲ得ザルナリ、衛氣ノ行ラザル所ハ、必ズ表ノ水血和セズ
シテ、惡寒ヲナスナリ、コレ内ニ寒疝ノ一毒凝結シテ、其ガ
為ニ衛氣不行シテ、惡寒ヲナスナリ、コレ脉ノ弦ナル所以
ナリ、緊ハ内ニ水血寒凝シテ、心胸迄モ衝ク勢アル故ニ、別

ニ心胸中ニ變ハナケレ、凡、食ヲ欲セザルナリ、右ノ如ク内
 ニ緊シク引シメラレテ、緊脈ヲアラハスニ至ル者ナレバ、
 正氣、邪氣ノ為ニ寒凝セラレテ、腹痛スルナリ、コレヲ寒疝
 ト名ク、故ニ緊則不欲食、邪正相搏、即為寒疝ト云リ、疝ニ七
 疝ノ差別アリテ、一ナラズトイヘ、凡、腹痛甚シク、腰脊股膝
 ニ往來シテ、痛ム者ヲ、疝氣、或ハ疝積ト名クルナリ、其根本
 ヲ推スニ、コレ皆百合ノ一毒、腰少腹ノ部ニ、盤結シテヨリ、
 ナス所ナレバ、人ニヨリ田良、或ハ臙瘡等出ル片ハ、腰痛疝
 氣ノ大ニ輕クナル者アリ、又痢病ヲ煩フテヨリ、疝氣ノ治
 シタルモアリ、又田良臙瘡ノ類モ、痢病ヨリ治スルモアリ、
 又由シ所キニ、田良雁來瘡ノ類治シテ、亦ニ疝氣、腹痛、腰痛

ヲナシタル者モアリ、或ハ其ヨリ内伏シテ、勞証トナリ、口
 鼻面目等ニ、上衝スルアリ、痔疾ニナリテ、惱ムアリ、コレ皆
 コノ天然百合ノ毒ノ變化ニヨル者ナリ、

○寒疝、遠臙痛、若發則自汗出、手足逆冷、其脈沈弦者、大烏頭
 煎主之、

コレヨリ寒疝ノ本条ヲ舉タリ、サテ疝ノ名目種々アレ、凡
 惣名ヲ疝ト云テ、腹痛ヲ以テ主トセリ、コノ条ノ寒疝ハ、臙
 傍ニアリテ、一通リノ腹痛ヨリハ、痛甚シクシテ、外ヨリ輻
 輻ニテ引シメラレ、中ヲ錐ノ類ニテモミコム如ク、ジリク
 ト痛ムナリ、故ニ其痛ノ發スル時ニハ、冷汗ヲカキテ、一身
 手足モ共ニ厥冷スルナリ、故ニ若發則自汗出、手足厥冷ト

云リ、外ノ病ハ手足厥冷ニ至リ、自汗出ルルハ、脈モ閉テ俱ニシタル者ナレバ、コノ寒疝ハ、腹痛ノ甚シキニ耐ズシテ、自汗モ出、手足モ厥冷スル証ナレバ、其脈沈弦ト云テ、内ニ沈ンデ、ヒツパリノアル脈ナリ、サテコノ自汗ノ二字ヲ、白汗ニシタル本アリ、又白津ニシタル本アリ、俱ニ傳写ノ誤ト見エタリ、ヤハリ自汗ノ方穩カナリ、奥ニアル陰狐疝ハ、コノ疝毒ノ變化シテ、陰囊ヘ下リテ出入スル者ナリ、コレ多クハ藏結ノ毒ノ變化ヨリ、コノ疝氣ノ諸証ヲ醸ス者ナリ、ヨク考テ、其變化轉遷ヲ察スベシ、

○寒疝、腹中痛、及脇痛、裏急者、當飯生姜羊肉湯主之、
コノ条ハ血ノ為ニ、陽氣引シメラレテ、腹中ノ痛ム者ナリ、

前ノ烏頭煎ニ比スレバ、痛少シク緩ナリ、中ノ字ニ、ヨク心ヲ付テ見ルベシ、コノ痛ハ腹ニ及ブ者ナリ、多クハ右ノ腹ニアリ、左ニアル者ハ、柴胡加芍藥湯ノ証ナリ、右ノミニ在テ、呼吸ニ碍ル者ハ、當飯芍藥湯ノ証ナリ、中ニ在テ、腹ヘモ痛ノ及フ者ハ、コノ湯ノ証ナリ、裏急スル所ハ、全ク小建中湯ノ証ノ、底腹ニテ引パリテ痛ム者ト同ジ、コレ寒疝ヨリ、前ノ如ク、脐ヲ繞テ痛ムトモナク、手足厥冷、自汗出マデニモ及バス、夕ニ陽氣引シメラレテ宣ズ、血コレガ為ニ不行ヲ以テ、腹中ヨリ脹ニカケ痛デ、裏急スル者ナリ、サテコノ當飯生姜羊肉湯ヲ試ミタルトナシ、羊肉手ニ入り難ク、夕トヒ得タリ、凡、真偽ヲ知ラザレバ、試ミガタシ、故ニ當飯建

中湯ヲ換用テ、コレ迄數十人ヲ治シタリ、或説ニ羊肉ハ黃
芪ノ一名ナリト云リ、尤スレバ當飯補血湯ヲ以テ、コノ証
ヲ主ルカ、コレ尙未ダ試ミズ、他日用テ其當否ヲ判断スベ
シ、サテ又方後ニ、若寒多者、加生姜成一斤トアリ、寒ノ多キ
ト云ハ、水ノ動クノ甚シキヲ云タルナリ、コレ腹中脹痛
裏急シテ、ソレガ為ニ、心胸中ニ水飲ノタマル証ナリ、又右
ノ如クニ血分シマリテ、ソレガ為ニ陽氣モ宣ザル証ナレ
バ、腹中ノ痛ニツレテ、寒冷ヲ覺ユル者アリ、又腰膝股脚共
ニ寒ル証アリ、コレハ生干姜ヲ加テ治スルナリ、故ニコノ
証ハ、生姜ト干姜トノ差別ニテ、其証ヲ診別スベシ、痛多而
嘔者トハ、其痛ニツヒテ、胸中ノ水飲動テ嘔スルナリ、因テ

橘皮白朮ヲ加テ、コレヲ和スルナリ、コレハ寒疝ノ証故、元
ヨリ水氣モタマリテ、和セザル所アレバ、半夏ノカ、ル者
トハ、少シク異ニシテ、眞ノ痰飲、欬嗽病篇ノ附録ノ、外臺ノ
茯苓飲ノ停痰宿水ノ嘔吐ノ筋合ナリ、故ニ始ノ寒多ト云
者モ、水飲ノ寢ニシテ、生姜ト干姜トノカ、ル所ヲ、ヨクク
察スベシ、

○寒疝、腹中痛、逆冷、手足不仁、若身疼痛、灸刺諸藥、不能治、抵
當用烏頭桂枝湯、

コノ証ハ、大烏頭煎ノ寒疝ノ証ト同ジナレ、凡別ニ表ニ
滯ル所アル故ニ、灸刺ノ類、其外寒疝ノミヲ治スル藥ニテ
ハ、治スルヲ能ハザルヲ以テ、大烏頭煎ヲ、桂枝湯ニテ解テ

用ルナリ、サテ腹中痛テ、一身共ニ表ヨリシマリテ、逆冷スルナリ、コレ内ヨリ陽気メグリテ、一身手足ニ及ブハ順ナリ、表ヨリシマリテ、手足ヨリ一身共ニ冷ルハ逆ナリ、コレ証ハ外側ヨリ、腹中ノ痛ム処マデ、ダンク冷コム勢アルナリ、前ノ烏頭煎ノ証ハ、腹中ノ痛ノ甚シキノニテ、自汗出、手足厥冷ス、コレハ寒疝ニテ腹中痛、其上ニ表証アリテ、其表証腹中ノ痛ト共ニ引シマル勢ニテ、逆冷スルナリ、故ニ手足ノ字ナクシテ、下ノ句ノ不仁ニ、手足ノ字ヲ置キタリ、此ノ如クニ内外共ニ引シマリテ、一身共ニ逆冷ニ至レバ、手足ハトント、気血通ゼスシテ、不仁スルナリ、コノ不仁ハ、自由ノキカヌヨリ、爪ヲ立テモ覺ザル迄ニ至ルナリ、又

若クハ表位ノ水血、陽気ニシメラレテ、身疼痛スルナリ、コレ表証ナレバ、陽疝実証ニアラザル故ニ、表証ナレバ、麻黄ノカ、ル者ニアラズ、風湿ノ桂枝附子湯、甘艸附子湯ノ疼痛ト同ジ証ナリ、故ニ外ノ藥ニテ種々ニシテモ、不能治ナリ、コレハ表位ノ邪ト、寒疝ト共ニ和解スベキナリ、適當ハ、表裏俱ニ和スベキ証ナリト示シテ、抵當用烏頭桂枝湯ト云リ、按スルニ三因方ニ、コノ証ヲ風寒疝ト云テ、外邪ヨリ、寒疝ヲ動シタル者ニシタリ、大ニ妙ナリ、故ニコ、ニ引テ、コノ証ヲ解スルノ注文トス、三因方ニ曰、治風寒疝、腹中痛、逆冷、手足不仁、身体疼痛、攻刺諸藥、不能療、及賊風入腹、攻刺五臟、拘急不得轉側、發作叫呼、陰縮、悉主之ト云リ、コレ外邪

言醫作卷十一

示后車痛

二寒疝ノ觸動シタル証故ニ灸ヲ針モ或ハ下劑等ノ諸藥
其外寒疝バカリヲ目當ニシテ用ル藥ハ一切功ナキナリ
及賊風入腹攻刺五臟ト云ヨリ以下ハ全ク傷寒ノ閉タル
勢ニテ寒疝強ク發シテ拘急不得轉側ニ至リ其痛ノ發作
スル片堪兼テ色ヲ揚ゲ叫ビ陰莖陰囊マデモ縮ルマデニ
至ル者ハ皆コノ烏頭桂枝湯ノ証ナリト云リ方後ニ其知
者如醉狀得吐者為中病ト云ハコノ藥ノ瞑眩シテ病ノ治
スル證拠ナリ前ノ大烏頭煎モ同ジク此ノ如ク瞑眩スベ
キニ其事ヲ云ズシテコノニ奉タルハコノ証ハ外邪ヲ受
テ桂枝湯ノ表發ノ勢ニテ瞑眩ノ必アルベキヲ示シタ
ルナリ大烏頭煎ノ方ハ時ニヨリテ瞑眩スルトセザルト

ノアルハ一涯ニ言難キ故ナリ按スルニ字典ニ疝所晏切
音訕説文ニ腹痛也トアリ釋名ニ疝誥也氣誥々然上入而
痛也トアリ又素問ニ黃帝曰疼得心脉而急為何病岐伯曰
病名心疝少腹當有形也方書ニ三陽急為瘕三陰急為疝男
子有七疝寒水筋血氣孤癩是也史記扁倉傳牡疝在鬲下上
連肺病得之內又臣意診之曰湧疝也令人不得前後洩又疝
氣客膀胱釋名ニ心痛曰疝トアリ其外巢氏病源候論ニモ
七疝五疝ノ名アリ又儒門事親ニモ疝ノ名目アリ奥ノ陰
孤疝ノ条ニ詳ニ奉ク以上凡例一個条本条三個条合シテ
四個条ヲ以テ寒疝ノ証ヲ辨明セリ
口脉緊如轉索無常者有宿食也

古川醫書卷十一

六

見川行版

コレヨリ宿食ノ凡例ヲ出セリ、サテ宿食アリテ、脈緊トナ
 リ、其緊脈ノ状モ、一通り繩ニヨリヲカケテ、引パリタル状
 ヨリハ、今一尋甚シクシテ、段々ヨリヲカクル如ク、引パリ
 テ堅クナリナガラ、グル、ト轉ズル形、三五調ハズシテ、拍
 子ニカ、ラヌナリ、故ニ其定リタル數十ク、グルクト轉ズ
 ルヲ形容シテ、如轉索、无常ト云リ、コレ内ニ引シマル処ア
 リテ、宿食ノ症トナリタルナリ、サテ宿食ト、食滯ト、同病ニ
 シテ少ク差別アリ、宿食ハ、大食ハセズ、其食物化セズシ
 テ、一兩日、或ハ三四日、乃至四五十日、又ハ年ヲ積ミテモ、其
 処ニ其倦アルヲ云、食滯ハ、暴食シタルヨリ滯リテ、其時カ、
 又ハ翌日カノ内ニ、胸滿心煩シキリニシテ、腹滿痛等ノ証

ヲナスヲ云リ、コノ証、吐下共ニナキハ、調胃承氣湯ノ症ナ
 リ、吐下シテ胸滿ノ方強クシテ、心下堅硬ナルハ、大柴胡湯
 ノ証ナリ、コノ差別ヲヨク診察スベキナリ、
 口脈緊、頭痛、惡風寒、腹中有宿食、不化也、

コレ真ノ宿食ノ脈ハ多クハ緊ナリ、一通り頭痛惡風寒ノ
 表証ハ、脈モ亦浮ナルベク、タトヒ緊アリテモ、浮緊ナルベ
 キニ、緊バカリニシテ、頭痛惡風寒ノ表病ノアル者ハ、腹中
 ニ宿食アリテ、化セザル故ナリ、コレ日数ヲ経タル宿食ニ、
 コノ証多シ、内ニ宿食ノアル者ハ、心胸或ハ腸胃ノ氣、鬱滯
 シテ疎通セザルヨリ、熱ヲ帶テ上迫スル故ニ、表証ト同ク、
 先頭痛シ、ソレヨリ表位ニ氣迫リテ、惡風ス、自發ノ証ト同

クシテ緊脈ヲアラハス程ニ裏ニ滯ル所アル故ニ惡寒モ
アリコレ宿食ノ和セザル所ヨリ頭痛惡風寒等ノ病ヲナ
スナリ脈ノ緊ナルヲ以テ裏ノ主タルヲ知ルニ足レリ坊
本ニハ風寒トアリテ惡ノ字ナシ今コレヲ補フテ頭痛ノ
表証ヲタシカニス宿食ノ証ハ思ハザル病ニアル者ナレ
バ此等ノ処ヲ平生ヨク工夫シテ診察スベキナリ

○問曰人病有宿食何以別之師曰寸口脈浮而大按之反瀯
尺中亦微而瀯故知有宿食大承氣湯主之

コノ条ハ問答ノ文ニシテ凡例ノ様ニ思ハルレバ方ヲ繫
キタル故ニコノニ奉テ本条トナスナリサテ病ニ宿食ト
云アリイカバシテ別ツヤト問ヲ發セシニ師ノ答ニ寸口

上部ノ脈ヲ診スルニ浮而大按之反瀯ト云リコレ食物内
ニ停滯シテアルニ回テ輕クトレバ浮重クトレバ其浮脈
ニカアリテ大ナレバ今一段按テ重クトレバ反テ瀯トシ
ブリテ指ニヒツヒテスラクノビザル脈ナリ又下部尺
位ノ脈ハ初ヨリ至テカスカニシテシブリタル脈ナリ故
ニ尺中亦微而瀯ト云リコノ亦ノ字ハ上ノ瀯ノ字ヨリカ
ハリタル亦ノ字ナリコレ寸口ノ脈ヲ輕クトレバ浮ニシ
テ至テ重ク按セバ瀯尺中モ亦輕クトレバ微ニシテ重ク
トレバ瀯ナリコノ瀯ハ塵脱ニハアテズ内ニ実スル所ヨ
リアラハル瀯脈故ニ宿食ノアルヲ知ルト云リ食ハ
元ヨリ胃中ニ受クベキ物ナレバ停滯シテ宿食トナレバ

食物胃中ニ実シテ、胃氣行ラザルナリ、回テ寸口モ、尺中モ、俱ニ瀯ヲアラハスナリ、故ニ大承氣湯ニテ、攻下スレバ、其宿食ノ下ルニツレテ、胃氣和シテ治スルナリ、故ニ大承氣湯主之ト云リ、コノ寸口ニテ、浮トナリ、尺中ニテ、微トナレバ、重ク按セバ、上下共ニ瀯ナルヲ以テ、宿食ナルヲ知ルニ足レリ、胃中ヲ候フ所ノ、関上ノ脈ハ、言フニ及バス、察シテ知ルベシト云意ニテ、ワザト関上ノ脈ヲ奉サルヲ察シテ知ルベシ、実シテ瀯脈ヲアラハスハ、獨リ宿食ノ証バカリナリ、其外ノ瀯脈ハ、多クハ塵脱ノ証ナリ、ヨクク察シテ、誤治スルヲナカルベシ、

○下利、不飲食者、有宿食也、當下之、宜大承氣湯、

夫レ一通リ下利スル者ハ、多ク内ノ脱シタル者ナリ、況ヤ飲食セザル者ニ於テヤ、然ルニコノ証ハ、下利シテ飲食セザレバ、脱証ニアラズ、コレ胃中ニ食物滞リテ、宿食トナリ、ソレガ為ニ、胃氣マスキ行ラズシテ、下利シ、且ツ食物ヲサ、エテ、飲食セザル者ナレバ、下利シテモ、宿食ヲ目當ニ下セハ、上ノ宿食下降シ、腸胃通暢シテ、下利モ自ラ止ム者ナリ、故ニ當下之、宜大承氣湯ト云リ、宜ノ字ハ、イツモノ如ク、廣ク承氣湯部類ヲ、處スベキ意ヲ含シテ見ルベシ、コレ実ト云ズシテ、実証ノ者ナルヲ、言外ニ含マセタルナリ、學者宜ク三思スベシ、

○脈數而滑者、實、此有宿食也、下之愈、宜大承氣湯、

コレ左ノ関上ヲ主トシテ診スベシ、サテ脉ヲ輕クトレバ、
数重クトレバ、滑ナルハコレ内ニ実スル宿食アリテ、外表
ニ氣ノ迫ル故ナリ、故ニ其実シタル、宿食ヲ下セバ、治スル
ナリ、ヨツテ此モ、宜大承氣湯ト云リ、按ズルニ陽明篇ニ、大
下後、六七日、不大便、煩不解、腹滿痛者、此有燥屎也、所以然者、
本有宿食故也、宜大承氣湯トアルヲモ、併セ考フベシ、

○宿食在上腕、當吐之、宜瓜蒂散、

コレモ同ジ宿食ナレバ、食物胃中ニ收ラズシテ、胃ノ上口
ニ滞リタル者ナリ、故ニ吐シテサバクナリ、サテ胃ニ上中
下ノ別アリ、上腕ハ、胃ノ上口ニシテ、上部ニ属シ、位ハ胸ニ
アタレリ、心下ノ処ハ、胃ノ中腕ナリ、腸へ及ブ処ハ、胃ノ下

腕ナリ、コノ三位ヲ以テ、吐下ノ差別アルナリ、按スルニ字
彙ニ、腕音管、胃府トアレバ、上腕ハ即チ胃府ノ上口ナルヲ
明カナリ、以上凡例二个条、本条四个条、合シテ六个条ヲ以
テ、宿食ノ者ヲ示シタリ、

△附方、外臺、烏頭湯、治寒疝、腹中絞痛、賊風入攻五臟、拘急不
得轉側、發作有時、使人陰縮、手足厥逆、

コノ条ハ、本条ノ烏頭桂枝湯ノ証ニ、ヨク似タレバ、外臺ニ
ハ、コノ烏頭湯ヲ用ヒタリ、サテ寒疝ニテ、腹中絞痛トナレ
バ、逆冷手足不仁、身疼痛等ノナキニテ、表外ニ迫リノナキ
ヲ知ルベシ、コレ外邪ヲ受テモ、裏ノ迫リヲヨクシテ、喘ヲ
腹中絞痛スルナリ、賊風入攻五臟、拘急不得轉側ニ至リテ、

其不得轉側ニ、発作有時ナリ、其時陰縮リテ、手足モ厥逆スルニ至ル、コレ同ジ寒疝ニテモ、烏頭桂枝湯ノ証ト、少シク異ニシテ、コノ烏頭湯ノカ、ル所ナリ、前篇ノ歷節疼痛、不可屈伸者ニ、烏頭湯ノ証アルヲモ、併セ考テ、コノ条ヲ解スベシ、サテ千金方ノ烏頭湯ノ方ハ、少シク藥味ニ出入アリ、烏頭五枚、大枣十枚、甘草二両、芍藥四両、桂心六両、老姜一片、右六味ナリ、併セ考フベシ、

△外臺、柴胡桂枝湯、治心腹卒中痛者、

コノ卒中痛ハ、兼テ腹痛ノ僻ノアル者カ、又ハ風疹ノ出シトスル片ニ、必アル証ナリ、コレヲ誤テ宿食類ナリト思フテ、少シニテモ下劑ヲ用ルト、ニスク痛甚シクナリテ、大ニ

惱ム者ナリ、時ニコノ柴桂湯ヲ用レバ、表外和シテ、風疹或ハ痒キ物、發散シテ解スルナリ、又出物ノ初メ、俄ニ寒戰シテ、後發熱シ、腹痛ヲ帯ル者等、皆コノ柴胡桂枝湯ノ証ナリ、コレ等ハ急度寒疝トモ、言ヒ難キ証ナレバ、腹痛ノ卒ニ來ル者ハ、疝毒ノ内伏シタル宿ノ者ナリ、コレ忘百合ノ一毒ノ散漫シテ、心腹ニアリテ、何ノ事ニ觸レテ、此ノ如キ証ヲアラハスナリ、コノ心腹卒中痛ニ、柴胡桂枝湯ヲ用ヒタルハ、實ニ良工ノ手段ナリ、三歎スルニ餘アリ、

△外臺、走馬湯、治中惡、心痛、腹脹、大便不通、

サテ中惡ハ、卒ニ胸惡クシテ、嘔吐腹痛、不大便ニ至ルト云フ、己ニ前篇ノ九痛丸ノ附録ニ、沈氏カ説ヲ引テ、絞腸烏痧

ノ証ヲノベタリ、併セ考フベシ、コレ亦卒ニ心腹ノ滿痛シテ、不大便ノ者ナリ、前ノ条モ同ジ形ナレバ、外表ヘ向テ和解シ、コノ証ハ内ニ堅凝シタル、邪毒ノ為ニ来ル故ニ、裏内ニ向テ、下解スルナリ、コレ同ク心腹ノ卒中痛ナレバ、部位ノ異ナルト、虚実ノアルトニ因テ、藥方各主トスル所アルヲ察スベシ、方後ノ飛尸鬼擊ハ、コレ亦急卒ノ病ニテ、取結引付ル証ナリ、初ノ痙病ノ篇ヲ、併セ考フベシ、三因方ニハ、コノ走馬湯ヲ、卒疝ニ用ヒタリ、コレ疝ノ類ニシテ、コ、ニ序ツベキ者ナレバ、挙テコノ条ノ活用ヲ示スナリ、三因方、走馬湯、治卒疝、无_キ故_キ心腹痛、陰縮、手足厥逆、并飛尸鬼擊トアリ、卒疝ノ名、大ニ妙ナリ、无_キ故_キニ心腹痛ヲ以テ、卒ニ来ル疝

ナリトシタリ、陰縮、手足厥逆ハ、前ノ烏頭湯ト、大ニマギラハシキ証ナレバ、ヨク照シテ知ルベシ、各目當アリテ、病状ノ同ジキ中ニ、主客ヲ辨別スベキナリ、
 腹滿寒疝宿食病篇、通計二十五条、凡例、本条、附録、俱ニ備リテ、三病ノ大意ノ虚実変化ヲ尽セリ、読者思ヲ潛メテ明メズレバ、層淺ノ解ニ滞リテ、醫術ニ害アルベシ、

古訓醫傳卷十六

論中風脈症八前

此卷內容為古訓醫傳卷十六的正文，包含多行垂直排列的醫論文字。由於文字極為模糊，具體內容難以辨識，但可見其為典型的醫家論述。

